

大学番号 019

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更

注1

**事前伺い**

群馬大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻

注2

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人群馬大学

令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部企画評価課

職名・氏名 係長・三木 智行

電話番号 027-220-7015

（夜間） 027-220-7015

e-mail kacho-akikaku@jimu.gunma-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

( )書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 教育学研究科

＜教育実践高度化専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	14
4. 既設大学等の状況	15
5. 教員組織の状況	17
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	38

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

国立大学法人群馬大学

## (2) 大学名

群馬大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒371-8510

群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	(フリガナ) 氏名 (現職就任年月)	
学長	(ヒラツカ ヒロシ) 平塚 浩士 (平成27年4月)	(イシザキ ヤスキ) 石崎 泰樹 (令和3年4月)	任期満了のため 令和3年4月1日(3)
研究科長	(サイトウ マドカ) 齋藤 周 (平成28年4月)	(フジモリ ケンタロウ) 藤森 健太郎 (令和3年4月)	任期満了のため 令和3年4月1日(3)
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)  
令和3年度に報告する内容 → (3)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
教育学研究科 教育実践高度化専攻 （専門職学位課程） 教職修士（専門職）	教育学・保育 学関係	2年	20人	年次 人	40人		基礎となる学部等  共同教育学部

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員 超過率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	20 ( ) [ ]	( ) [ ]	20 ( ) [ ]	( ) [ ]	1.00倍	-1倍	
志願者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	23 ( ) [ ]	( ) [ ]	24 ( ) [ ]	( ) [ ]			
受験者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	23 ( ) [ ]	( ) [ ]	24 ( ) [ ]	( ) [ ]			
合格者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	22 ( ) [ ]	( ) [ ]	21 ( ) [ ]	( ) [ ]			
B 入学者数	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]	20 ( ) [ ]	( ) [ ]	20 ( ) [ ]	( ) [ ]			
入学定員超過率 B/A							1						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	20 ( )	[ ] ( )	20 ( )	[ ] ( )	
2年次	/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	20 ( )	[ ] ( )	
3年次	/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
4年次	/		/		/		[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	
計	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	[ ] ( )	20 ( )	[ ] ( )	40 ( )	[ ] ( )	

・ 令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	人	人	平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	20人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	40人	0人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
合計		0人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{20} = \boxed{0} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{40} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

## 2 授業科目の概要

<教育学研究科 教育実践高度化専攻（教職リーダーコース）>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配年	当次	単位数				専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
共通5領域	教育課程の編成及び実施	教育課程編成の理論と実践	1前	2			1						兼1	
	教科等の実践的な指導方法	授業実践分析	1前	2			1	1						
	生徒指導及び教育相談	生徒指導の理論と実践	1前	2			1							
	学級経営及び学校経営	学校づくりと学級経営	1前	2			3	1						
	学校教育と教員の在り方	教員の職能成長と倫理	1前	2			1						兼1	
	コース科目	教育課程の編成及び実施	カリキュラム開発の理論と実践	1後	2			2						
		教科等の実践的な指導方法	学習支援の理論と実践	1前	2			2						
		教科等の実践的な指導方法	教育評価の理論と実践	1後	2			2						
		生徒指導及び教育相談	子ども理解と支援・指導の理論と実践	1前	2			1		1				
		生徒指導及び教育相談	特別活動指導の理論と実践	1後	2			2						
学校経営及び学校経営		学校経営の理論と実践	1後	2			2		1					
小計 (13科目)			1前	2			2							
			1後	2			2		1					
今日の教育課題	共通科目	多文化共生教育の課題と実践	1前	2			10	2	1	0	0	0	兼2	
コース科目	外国につながる児童生徒の指導と支援		1後	2									兼2	
	学校組織マネジメント演習		1後	2			1	1						
	学校危機管理の理論と実践		1後	2			1	1						
小計 (4科目)			2	6	0	1	1	0	0	0	0	兼3		
研究方法	教育アセスメント演習		1後	2			1		1				兼1	
実習	高度経営力・指導力開発実習Ⅰ		1通	4			7	2	1				兼2	
	高度経営力・指導力開発実習Ⅱ		2通	6			7	2	1				兼2	
	小計 (2科目)			10	0	0	7	2	1	0	0	0	兼2	
課題研究	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ		1前	2			7	2	1				兼2	
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ		1後	2			7	2	1				兼2	
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ		2前	2			7	2	1				兼2	
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ		2後	2			7	2	1				兼2	
	小計 (4科目)			8	0	0	7	2	1	0	0	0	兼2	
合計 (24科目)				30	24	0	11	2	1	0	0	0	兼4	
卒業要件及び履修方法														
1. 共通5領域 ※22単位必修														
(1) 共通科目														
教育課程の編成及び実施に関する領域科目 2単位必修														
教科等の実践的な指導方法に関する領域科目 2単位必修														
生徒指導及び教育相談に関する領域科目 2単位必修														
学級経営及び学校経営に関する領域科目 2単位必修														
学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修														
(2) コース科目														
下記の①-④の中から3科目6単位必修														
①カリキュラム開発の理論と実践														
②学校経営の理論と実践														
③学校評価とスクールリーダーシップ														
④地方教育行政の理論と実践														
下記の⑤-⑧の中から3科目6単位必修														
⑤学習支援の理論と実践														
⑥教育評価の理論と実践														
⑦子ども理解と支援・指導の理論と実践														
⑧特別活動指導の理論と実践														
2. 今日の教育課題														
多文化共生教育の課題と実践 2単位必修														
3. コース科目														
課題研究6単位必修														
4. 自由選択科目														
全コース科目の中から6単位選択必修														
5. 実習科目														
10単位必修														
○卒業要件単位数														
46単位														
○履修科目の登録上限														
年間40単位														

<教育学研究科 教育実践高度化専攻（授業実践開発コース）>

(1) ① 授業科目表

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配年	当次	単位数				専任教員等の配置					兼任・兼担	
				必修	選択	自由	教	准教授	講師	助教	助手			
共通5領域	教育課程の編成及び実施	教育課程編成の理論と実践	1前	2			1			1			兼1	
	教科等の実践的な指導方法	授業実践分析	1前	2			1	1						
	生徒指導及び教育相談	生徒指導の理論と実践	1前	2			1							
	学級経営及び学校経営	学校づくりと学級経営	1前	2			3	1						
	学校教育と教員の在り方	教員の職能成長と倫理	1前	2			1						兼1	
	コース科目	教育課程の編成及び実施	カリキュラム開発の理論と実践	1後	2			2						
		教科等の実践的な指導方法	学習支援の理論と実践	1前	2			2						
		教科等の実践的な指導方法	教育評価の理論と実践	1後	2			2						
		生徒指導及び教育相談	子ども理解と支援・指導の理論と実践	1前	2			1		1				
		生徒指導及び教育相談	特別活動指導の理論と実践	1後	2			2						
学校経営及び学校経営		学校経営の理論と実践	1後	2			2		1					
小計 (13科目)			1前	2			2							
			1後	2			2		1					
今日の教育課題	共通科目	多文化共生教育の課題と実践	1前	2			10	2	1	0	0	0	兼2	
コース科目	外国につながる児童生徒の指導と支援		1後	2									兼2	
	学校組織マネジメント演習		1後	2			1	1						
	学校危機管理の理論と実践		1後	2			1	1						
小計 (4科目)			2	6	0	1	1	0	0	0	0	0	兼2	
研究方法	教育アセスメント演習		1後	2			1		1				兼1	
実習	高度経営力・指導力開発実習Ⅰ		1通	4			7	3					兼2	
	高度経営力・指導力開発実習Ⅱ		2通	6			7	3					兼2	
	小計 (2科目)			10			7	3	0	0	0	0	兼2	
課題研究	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ		1前	2			7	3					兼2	
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ		1後	2			7	3					兼2	
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ		2前	2			7	3					兼2	
	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ		2後	2			7	3					兼2	
	小計 (4科目)			8			7	3	0	0	0	0	兼2	
合計 (24科目)				30	24		11	4	1	0	0	0	兼4	
卒業要件及び履修方法														
1. 共通5領域 ※22単位必修														
(1) 共通科目														
教育課程の編成及び実施に関する領域科目 2単位必修														
教科等の実践的な指導方法に関する領域科目 2単位必修														
生徒指導及び教育相談に関する領域科目 2単位必修														
学級経営及び学校経営に関する領域科目 2単位必修														
学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修														
(2) コース科目														
下記の①-④の中から3科目6単位必修														
①カリキュラム開発の理論と実践														
②学校経営の理論と実践														
③学校評価とスクールリーダーシップ														
④地方教育行政の理論と実践														
下記の⑤-⑧の中から3科目6単位必修														
⑤学習支援の理論と実践														
⑥教育評価の理論と実践														
⑦子ども理解と支援・指導の理論と実践														
⑧特別活動指導の理論と実践														
2. 今日の教育課題														
多文化共生教育の課題と実践 2単位必修														
3. コース科目														
課題研究6単位必修														
4. 自由選択科目														
全コース科目の中から6単位選択必修														
5. 実習科目														
10単位必修														
○卒業要件単位数														
46単位														
○履修科目の登録上限														
年間40単位														

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配年当次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通5領域	共通科目	教育課程の編成及び実施	1前	2		1						兼1
		教科等の実践的な指導方法	1前	2		1	1					
		生徒指導及び教育相談	1前	2		1						
		学級経営及び学校経営	1前	2		3	1					
		学校教育と教員の在り方	1前	2		1						兼1
	コース科目	教育課程の編成及び実施	横断的・総合的な学習指導の理論と実践A	1前	2							兼4
			横断的・総合的な学習指導の理論と実践B	1後	2							兼4
		授業研究の理論と実践	1後	2		1						兼1
		道徳教育の理論と実践	1前	2								兼1
		国語科学習指導の理論と実践	1後	2			2					兼1
		社会科学習指導の理論と実践	1後	2		1	1					兼1
		英語科学習指導の理論と実践	1後	2		1						兼1
		算数・数学科学習指導の理論と実践	1後	2		1	1					兼1
		理科学習指導の理論と実践	1後	2		1	1					兼3
	今日の教育課題	共通科目	多文化共生教育の課題と実践	1前	2							兼2
コース科目			学校教育におけるICTの実践と課題	1前	2			1				兼1
			インクルージョン教育としての学習指導	1後	2		2	1				兼1
			幼小連携の課題と実践	1-2前	2		1					兼1
生活科教育の課題と実践			1-2後	2		1					兼1	
小学校英語教育の理論と実践			1-2後	2		1					兼1	
教育相談の課題と実践		1-2前	2		2					兼1		
小計 (7科目)	—	6	8	0	3	1	1	0	0	兼4		
教科内容構成学	共通科目	国語科内容構成学	1前	2			2				兼4	
		社会科内容構成学	1前	2		1	1				兼6	
		英語科内容構成学	1前	2		1					兼7	
		算数・数学科内容構成学	1前	2		1	1				兼4	
		理科内容構成学	1前	2		1	1				兼5	
		技術科内容構成学	1前	2				1			兼3	
		音楽科内容構成学	1前	2		1	1				兼4	
		図画工作・美術科内容構成学	1前	2		1					兼4	
		家庭科内容構成学	1前	2		1	1				兼3	
		保健体育科内容構成学	1前	2		1	1				兼2	
小計 (10科目)	—	0	20	0	6	9	2	0	0	兼43		
教材研究と授業構想	共通科目	社会科の教材研究と授業構想A	1-2前	2		1	1				兼6	
		社会科の教材研究と授業構想B	1-2後	2		1	1				兼6	
		教材研究と授業構想のための数学的基礎	1-2前	2		2	1	1			兼4	
		理科の教材研究と授業構想	1-2前	2							兼7	
		保健体育科の教材研究と内容構成A	1-2前	2							兼2	
		保健体育科の教材研究と内容構成B	1-2後	2							兼3	
小計 (6科目)	—	0	12	0	1	2	1	0	0	兼21		
教育研究方法論	共通科目	教育実践研究法	1前	2		4	2	2			兼6	
		小計 (1科目)	—	0	2	0	4	2	2	0	0	兼6
実習	共通科目	授業実践開発実習 I	1通	2		6	9	2			兼2	
		授業実践開発実習 II	2通	8		6	9	2			兼2	
		小計 (2科目)	—	10	0	0	6	9	2	0	0	兼2
課題研究	共通科目	授業実践課題研究 I	1前	2		6	9	2			兼2	
		授業実践課題研究 II	1後	2		6	9	2			兼2	
		授業実践課題研究 III	2前	2		6	9	2			兼2	
		授業実践課題研究 IV	2後	2		6	9	2			兼2	
		小計 (4科目)	—	8	0	0	6	9	2	0	0	兼2
合計 (49科目)	—	38	66	0	14	11	2	0	0	兼52		

卒業要件及び履修方法

1. 共通5領域 ※18単位必修  
 (1) 教育課程の編成及び実施に関する領域科目  
 教育課程編成の理論と実践 2単位必修  
 横断的・総合的な学習指導の理論と実践 A又はBいずれか2単位選択必修  
 (2) 教科等の実践的な指導方法に関する領域科目  
 授業実践分析 2単位必修  
 授業研究の理論と実践 2単位必修  
 道徳教育の理論と実践 2単位必修  
 授業研究の理論と実践及び道徳教育の理論と実践を除く各教科学習指導の理論と実践の中から2単位選択必修

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配年当次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通5領域	共通科目	教育課程の編成及び実施	1前	2		1		1			兼1	
		教科等の実践的な指導方法	1前	2		1	1					
		生徒指導及び教育相談	1前	2		1						
		学級経営及び学校経営	1前	2		3	1					
		学校教育と教員の在り方	1前	2		1					兼1	
	コース別科目	教育課程の編成及び実施	横断的・総合的な学習指導の理論と実践A	1前	2				1	2		兼4
			横断的・総合的な学習指導の理論と実践B	1後	2					1	2	兼4
		授業研究の理論と実践	1後	2				2	2			
		道徳教育の理論と実践	1前	2							兼1	
		国語科学習指導の理論と実践	1後	2		1	1				兼1	
		社会科学習指導の理論と実践	1後	2			1				兼1	
		英語科学習指導の理論と実践	1後	2		1					兼1	
		算数・数学科学習指導の理論と実践	1後	2			1	1			兼1	
		理科学習指導の理論と実践	1後	2			2				兼3	
	今日の教育課題	共通科目	多文化共生教育の課題と実践	1前	2							兼2
コース別科目			学校教育におけるICTの実践と課題	1前	2			1	2			兼1
			インクルージョン教育としての学習指導	1後	2			3				兼1
			幼小連携の課題と実践	1-2前	2		1					兼1
生活科教育の課題と実践			1-2後	2		1	1				兼1	
小学校英語教育の理論と実践			1-2後	2		1	1				兼1	
教育相談の課題と実践		1-2前	2							兼2		
小計 (7科目)	—	6	8	0	5	2	2	0	0	兼2		
教科内容構成学	共通科目	国語科内容構成学	1前	2			1	1			兼4	
		社会科内容構成学	1前	2		1	1				兼6	
		英語科内容構成学	1前	2		1					兼7	
		算数・数学科内容構成学	1前	2		1	1				兼4	
		理科内容構成学	1後	2			2				兼5	
		技術科内容構成学	1前	2				1			兼3	
		音楽科内容構成学	1後	2		1	1				兼4	
		図画工作・美術科内容構成学	1前	2		1					兼3	
		家庭科内容構成学	1前	2		1	1				兼2	
		保健体育科内容構成学	1前	2		1	1				兼2	
小計 (10科目)	—				7	6	3	0	0	兼41		
教材研究と授業構想	共通科目	社会科の教材研究と授業構想A	1-2前	2		1	1				兼6	
		社会科の教材研究と授業構想B	1-2後	2		1	1				兼6	
		教材研究と授業構想のための数学的基礎	1-2前	2		2	1	1			兼4	
		理科の教材研究と授業構想	1-2前	2							兼7	
		保健体育科の教材研究と内容構成A	1-2前	2							兼2	
		保健体育科の教材研究と内容構成B	1-2後	2							兼3	
小計 (6科目)	—	0	12	0	0	2	1	0	0	兼21		
教育研究方法論	共通科目	教育実践研究法	1前	2		4	2	2			兼6	
		小計 (1科目)	—	0	2	0	4	2	2	0	0	兼6
実習	共通科目	授業実践開発実習 I	1通	2		8	8	4			兼1	
		授業実践開発実習 II	2通	8		8	8	4			兼1	
		小計 (2科目)	—	10	0	0	8	8	4	0	0	兼1
課題研究	共通科目	授業実践課題研究 I	1前	2		8	8	4			兼1	
		授業実践課題研究 II	1後	2		8	8	4			兼1	
		授業実践課題研究 III	2前	2		8	8	4			兼1	
		授業実践課題研究 IV	2後	2		8	8	4			兼1	
		小計 (4科目)	—	8		8	8	4	0	0	兼1	
合計 (61科目)	—	38	66	4	18	10	4	0	0	兼49		

卒業要件及び履修方法

1. 共通5領域 ※18単位必修  
 (1) 教育課程の編成及び実施に関する領域科目  
 教育課程編成の理論と実践 2単位必修  
 横断的・総合的な学習指導の理論と実践 A又はBいずれか2単位選択必修  
 (2) 教科等の実践的な指導方法に関する領域科目  
 授業実践分析 2単位必修  
 授業研究の理論と実践 2単位必修  
 道徳教育の理論と実践 2単位必修  
 授業研究の理論と実践及び道徳教育の理論と実践を除く各教科学習指導の理論と実践の中から2単位選択必修



(3)生徒指導及び教育相談に関する領域科目 2単位必修  
 (4)学級経営及び学校経営に関する領域科目 2単位必修  
 (5)学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修

2. 今日的な教育課題に関する領域科目  
 多文化共生教育の課題と実践 2単位必修  
 学校教育におけるICTの実践と課題 2単位必修  
 インクルーシブ教育としての学習指導 2単位必修

3. コース科目  
 課題研究 6単位必修  
 各教科内容構成学の中から2単位選択必修

4. 自由選択科目  
 コース科目の中から4単位選択必修

5. 実習科目  
 10単位必修  
 ○卒業要件単位数  
 46単位  
 ○履修科目の登録上限  
 年間40単位

(3)生徒指導及び教育相談に関する領域科目 2単位必修  
 (4)学級経営及び学校経営に関する領域科目 2単位必修  
 (5)学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修

2. 今日的な教育課題に関する領域科目  
 多文化共生教育の課題と実践 2単位必修  
 学校教育におけるICTの実践と課題 2単位必修  
 インクルーシブ教育としての学習指導 2単位必修

3. コース科目  
 課題研究 6単位必修  
 各教科内容構成学の中から2単位選択必修

4. 自由選択科目  
 コース科目の中から4単位選択必修

5. 実習科目  
 10単位必修  
 ○卒業要件単位数  
 46単位  
 ○履修科目の登録上限  
 年間40単位

<教育学研究科 教育実践高度化専攻(特別支援教育実践開発コース)>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通5領域	共通科目	教育課程の編成及び実施	1前	2		1						兼1
		教科等の実践的な指導方法	1前	2		1	1					
		生徒指導及び教育相談	1前	2		1						
		学級経営及び学校経営	1前	2		3	1					
		学校教育と教員の在り方	1前	2		1						兼1
	コース科目	教育課程の編成及び実施	1前	2			1					
		教科等の実践的な指導方法	1後	2			1					
		生徒指導及び教育相談	1前	2		1						
		学級経営及び学校経営	1前	2		1						
		小計(9科目)	—	18	0	0	8	3	0	0	0	0
なご教育	共通科目	1前	2								兼2	
	小計(1科目)	—	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2
コース科目	特別支援教育実践	特別支援教育の理論と実践	1後	2		1						
		インクルーシブ教育の理論と課題	1後	2		1						
		特別支援教育と医療・福祉との連携	1後	2		1						
		重度・重複障害教育の実践と課題	1後	2		1						
	小計(4科目)	—	8	0	0	2	2	0	0	0	0	
実習	特別支援教育課題発見実習	特別支援教育課題発見実習Ⅰ	1前	2		3	3					
		特別支援教育課題発見実習Ⅱ	1後	2		3	3					
		特別支援教育課題解決実習	2通	6		3	3					
		小計(3科目)	—	10	0	0	3	3	0	0	0	0
	課題研究	特別支援教育課題研究	特別支援教育課題研究Ⅰ	1前	2		3	3				
特別支援教育課題研究Ⅱ			1後	2		3	3					
特別支援教育課題研究Ⅲ			2前	2		3	3					
特別支援教育課題研究Ⅳ			2後	2		3	3					
小計(4科目)		—	8	0	0	3	3	0	0	0	0	
合計(21科目)	—	46	0	0	9	5	0	0	0	0	兼4	
卒業要件及び履修方法												
1. 共通5領域 ※18単位必修												
(1)教育課程の編成及び実施に関する領域科目 4単位必修												
(2)教科等の実践的な指導方法に関する領域科目 4単位必修												
(3)生徒指導及び教育相談に関する領域科目 4単位必修												
(4)学級経営及び学校経営に関する領域科目 4単位必修												
(5)学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修												
2. 今日的な教育課題に関する領域科目 2単位必修												
3. コース科目												
課題研究 6単位必修												
特別支援教育実践から8単位必修												
4. 自由選択科目												
他コース科目の中から2単位選択必修												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通5領域	共通科目	教育課程の編成及び実施	1前	2		1						兼1
		教科等の実践的な指導方法	1前	2		1	1					
		生徒指導及び教育相談	1前	2		1	1					
		学級経営及び学校経営	1前	2		3	1					
		学校教育と教員の在り方	1前	2		1						兼1
	コース科目	教育課程の編成及び実施	1前	2			1					
		教科等の実践的な指導方法	1後	2			1					
		生徒指導及び教育相談	1前	2		1						兼1
		学級経営及び学校経営	1前	2		1						
		小計(9科目)	—	18			10	6	1	0	0	0
なご教育	共通科目	1前	2								兼2	
	小計(1科目)	—	2								兼2	
コース科目	特別支援教育実践	特別支援教育の理論と実践	1後	2		1						兼1
		インクルーシブ教育の理論と課題	1後	2		1						
		特別支援教育と医療・福祉との連携	1後	2		2						
		重度・重複障害教育の実践と課題	1後	2		2						
	小計(4科目)	—	8			4	2	0	0	0	0	兼1
実習	特別支援教育課題発見実習	特別支援教育課題発見実習Ⅰ	1前	2		4	3					
		特別支援教育課題発見実習Ⅱ	1後	2		4	3					
		特別支援教育課題解決実習	2通	6		4	3					
		小計(3科目)	—	10		4	3	0	0	0	0	0
	課題研究	特別支援教育課題研究	特別支援教育課題研究Ⅰ	1前	2		4	3				
特別支援教育課題研究Ⅱ			1後	2		4	3					
特別支援教育課題研究Ⅲ			2前	2		4	3					
特別支援教育課題研究Ⅳ			2後	2		4	3					
小計(4科目)		—	8		4	3	0	0	0	0	0	
合計(21科目)	—	46			12	6	1	0	0	0	兼5	
卒業要件及び履修方法												
1. 共通5領域 ※18単位必修												
(1)教育課程の編成及び実施に関する領域科目 4単位必修												
(2)教科等の実践的な指導方法に関する領域科目 4単位必修												
(3)生徒指導及び教育相談に関する領域科目 4単位必修												
(4)学級経営及び学校経営に関する領域科目 4単位必修												
(5)学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修												
2. 今日的な教育課題に関する領域科目 2単位必修												
3. コース科目												
課題研究 6単位必修												
特別支援教育実践から8単位必修												
4. 自由選択科目												
他コース科目の中から2単位選択必修												

5. 実習科目 10単位必修 ○卒業要件単位数 46単位 ○履修科目の登録上限 年間40単位
---

5. 実習科目 10単位必修 ○卒業要件単位数 46単位 ○履修科目の登録上限 年間40単位
---

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				兼任・兼担		
			必修	選択	自由	教	准教	講師	助教	助手			
共通5領域	共通科目	教育課程の編成及び実施	1前	2			1						兼1
		教科等の実践的な指導方法	1前	2			1	1					
		生徒指導及び教育相談	1前	2			1	1					
		学級経営及び学校経営	1前	2			4	1					
		学校教育と教員の在り方	1前	2			1						兼1
	コース科目	教育課程の編成及び実施	1後		2		2						
		教科等の実践的な指導方法	1前		2		2						
		1後		2		2							
		生徒指導及び教育相談	1前		2		2	1					
		特別活動指導の理論と実践	1後		2		3						
		学級経営及び学校経営	1後		2		1						
		学校評価とスクールリーダーシップ	1前		2		2						
		1後		2		1	1						
小計 (13科目)	—	10	16	0	11	4	0	0	0	0	0	兼2	
今日的な教育課題	共通科目	多文化共生教育の課題と実践	1前	2									兼2
		1後		2									兼2
	コース科目	学校組織マネジメント演習	1後		2		1	1					
		1後		2		1	1						
小計 (4科目)	—	2	6	0	1	1	0	0	0	0	0	兼3	
研究方法	教育アセスメント演習	1後		2		1	1					兼1	
実習	高度経営力・指導力開発実習Ⅰ	1通	4			8	3					兼2	
	2通	6			8	3						兼2	
	小計 (2科目)	—	10	0	0	8	3	0	0	0	0	兼2	
課題研究	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ	1前	2			8	3					兼2	
	1後	2			8	3						兼2	
	2前	2			8	3						兼2	
	2後	2			8	3						兼2	
	小計 (4科目)	—	8	0	0	8	3	0	0	0	0	兼2	
合計 (24科目)	—	30	24	0	12	4	0	0	0	0	0	兼4	

卒業要件及び履修方法

1. 共通5領域 ※22単位必修
(1) 共通科目
教育課程の編成及び実施に関する領域科目 2単位必修
教科等の実践的な指導方法に関する領域科目 2単位必修
生徒指導及び教育相談に関する領域科目 2単位必修
学級経営及び学校経営に関する領域科目 2単位必修
学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修
(2) コース科目
下記の①-④の中から3科目6単位必修
①カリキュラム開発の理論と実践
②学校経営の理論と実践
③学校評価とスクールリーダーシップ
④地方教育行政の理論と実践
下記の⑤-⑧の中から3科目6単位必修
⑤学習支援の理論と実践
⑥教育評価の理論と実践
⑦子ども理解と支援・指導の理論と実践
⑧特別活動指導の理論と実践
2. 今日的な教育課題
多文化共生教育の課題と実践 2単位必修
3. コース科目
課題研究6単位必修
4. 自由選択科目
全コース科目の中から6単位選択必修
5. 実習科目
10単位必修
○卒業要件単位数 46単位
○履修科目の登録上限 年間40単位

【令和2年度】

	単位数	専任教員等の配置	兼
--	-----	----------	---

科目区分	授業科目の名称	記 年 次	必 修	選 択	自 由	教 授	准 授	講 師	助 教	助 手	任 務 担 当
共通科目	教育課程の編成及び実施	1前	2			1					兼1
	教科等の実践的な指導方法	1前	2			1	1				
	生徒指導及び教育相談	1前	2			1	1				
	学級経営及び学校経営	1前	2			4	1				
	学校教育と教員の在り方	1前	2			1					兼1
	教育課程の編成及び実施	1後	2			1	2				兼41
		1後	2			1	2				兼41
	授業研究の理論と実践	1後	2			2	2				
	道徳教育の理論と実践	1前	2								兼1
	国語科学習指導の理論と実践	1後	2			1	1				
社会科学習指導の理論と実践	1後	2			1	1					
英語科学習指導の理論と実践	1後	2			1					兼1	
算数・数学科学習指導の理論と実践	1後	2			1	1					
理科科学習指導の理論と実践	1後	2			1	1					
技術科学習指導の理論と実践	1後	2					1			兼3	
音楽科学習指導の理論と実践	1前	2			1	1					
図画工作・美術科学習指導の理論と実践	1後	2				1				兼1	
家庭科学習指導の理論と実践	1後	2			1	1					
保健体育科学習指導の理論と実践	1後	2			1	1					
小計 (19科目)		—	14	24	0	12	12	1	0	0	兼45
今日的な教育課題	共通科目	多文化共生教育の課題と実践	1前	2							兼2
	コース科目	学校教育におけるICTの実践と課題	1前	2			1	1			
		インクルーシブ教育としての学習指導	1後	2			2	1			兼1
		幼小連携の課題と実践	1-2前	2			1				
		生活科教育の課題と実践	1-2後	2			1	1			
		小学校英語教育の理論と実践	1-2後	2			1	1			
教育相談の課題と実践	1-2前	2			1						
小計 (7科目)		—	6	8	0	4	3	1	0	0	兼3
教科内容構成学	国語科内容構成学	1前	2			1	1				兼4
	社会科内容構成学	1前	2			1	1				兼6
	英語科内容構成学	1前	2			1					兼7
	算数・数学科内容構成学	1前	2			1	1				兼4
	理科内容構成学	1後	2			1	1				兼5
	技術科内容構成学	1前	2					1			兼3
	音楽科内容構成学	1後	2			1	1				兼4
	図画工作・美術科内容構成学	1前	2				1				兼5
	家庭科内容構成学	1前	2			1	1				兼3
	保健体育科内容構成学	1前	2			1	1				兼2
小計 (10科目)		—	0	20	0	7	8	2	0	0	兼43
教材研究と授業構想	社会科の教材研究と授業構想A	1-2前	2			1	1				兼6
	社会科の教材研究と授業構想B	1-2後	2			1	1				兼6
	教材研究と授業構想のための数学的基礎	1-2前	2				1	1			兼4
	理科の教材研究と授業構想	1-2前	2								兼7
	保健体育科の教材研究と内容構成A	1-2前	2								兼2
	保健体育科の教材研究と内容構成B	1-2後	2								兼3
小計 (6科目)		—	0	12	0	1	2	1	0	0	兼21
教育研究方法論	教育実践研究法	1前	2			6	3	2			兼1
	教職実践基礎研究A	1-2前	2			2	1				兼1
	教職実践基礎研究B	1-2後	2			2	1				兼1
小計 (3科目)		—	0	2	4	6	3	2	0	0	兼2
実習	授業実践開発実習 I	1通	2			8	10	2			兼2
	授業実践開発実習 II	2通	8			8	10	2			兼2
	小計 (2科目)		—	10	0	0	8	10	2	0	0
課題研究	授業実践課題研究 I	1前	2			8	10	2			兼2
	授業実践課題研究 II	1後	2			8	10	2			兼2
	授業実践課題研究 III	2前	2			8	10	2			兼2
	授業実践課題研究 IV	2後	2			8	10	2			兼2
	小計 (4科目)		—	8	0	0	8	10	2	0	0
合計 (61科目)		—	38	66	4	17	12	2	0	0	兼51

卒業要件及び履修方法

1. 共通5領域 ※18単位必修

- (1) 教育課程の編成及び実施に関する領域科目  
教育課程編成の理論と実践 2単位必修  
横断的・総合的な学習指導の理論と実践 A又はBいずれか2単位選択必修
- (2) 教科等の実践的な指導方法に関する領域科目  
授業実践分析 2単位必修  
授業研究の理論と実践 2単位必修  
道徳教育の理論と実践 2単位必修  
授業研究の理論と実践及び道徳教育の理論と実践を除く各教科科学習指導の理論と実践の中から2単位選択必修
- (3) 生徒指導及び教育相談に関する領域科目 2単位必修
- (4) 学級経営及び学校経営に関する領域科目 2単位必修
- (5) 学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修

2. 今日的な教育課題に関する領域科目 多文化共生教育の課題と実践 2単位必修 学校教育におけるICTの実践と課題 2単位必修 インクルーシブ教育としての学習指導 2単位必修
3. コース科目 課題研究6単位必修 各教科内容構成学の中から2単位選択必修
4. 自由選択科目 コース科目の中から4単位選択必修
5. 実習科目 10単位必修
○卒業要件単位数 46単位
○履修科目の登録上限 年間40単位

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通5領域	教育課程の編成及び実施	教育課程編成の理論と実践	1前	2			1						兼1	
	共通科目	教科等の実践的な指導方法	授業実践分析	1前	2			1	1					
		生徒指導及び教育相談	生徒指導の理論と実践	1前	2			1	1					
		学級経営及び学校経営	学校づくりと学級経営	1前	2			4	1					
	コース科目	学校教育と教員の在り方	教員の職能成長と倫理	1前	2			1						兼1
		教育課程の編成及び実施	特別支援教育におけるカリキュラムデザイン	1前	2				2					
		教科等の実践的な指導方法	特別支援教育における授業実践	1後	2				2					
		生徒指導及び教育相談	特別支援教育コーディネーターの役割と課題	1前	2			1						兼1
	小計	学級経営及び学校経営	特別支援教育の制度と学校・学級経営	1前	2			2						
		小計(9科目)		—	18	0	0	10	5	0	0	0	0	兼3
なご教育科目	共通科目	多文化共生教育の課題と実践	1前	2									兼2	
	小計(1科目)		—	2	0	0	0	0	0	0	0	0	兼2	
コース科目	特別支援教育実践	特別支援教育の理論と実践	1後	2			1						兼1	
		インクルーシブ教育の理論と課題	1後	2				1						
		特別支援教育と医療・福祉との連携	1後	2			2							
		重度・重複障害教育の実践と課題	1後	2			2							
	小計(4科目)		—	8	0	0	3	3	0	0	0	0	兼1	
実習	特別支援教育課題発見実習Ⅰ	1前	2			3	4							
	特別支援教育課題発見実習Ⅱ	1後	2			3	4							
	特別支援教育課題解決実習	2通	6			3	4							
	小計(3科目)		—	10	0	0	3	4	0	0	0	0		
課題研究	特別支援教育課題研究Ⅰ	1前	2			3	4							
	特別支援教育課題研究Ⅱ	1後	2			3	4							
	特別支援教育課題研究Ⅲ	2前	2			3	4							
	特別支援教育課題研究Ⅳ	2後	2			3	4							
	小計(4科目)		—	8	0	0	3	4	0	0	0	0		
合計(21科目)			—	46	0	0	11	7	0	0	0	0	兼5	

卒業要件及び履修方法

1. 共通5領域 ※18単位必修
(1)教育課程の編成及び実施に関する領域科目 4単位必修
(2)教科等の実践的な指導方法に関する領域科目 4単位必修
(3)生徒指導及び教育相談に関する領域科目 4単位必修
(4)学級経営及び学校経営に関する領域科目 4単位必修
(5)学校教育と教員の在り方に関する領域科目 2単位必修
2. 今日的な教育課題に関する領域科目 2単位必修
3. コース科目 課題研究 6単位必修 特別支援教育実践から8単位必修
4. 自由選択科目 他コース科目の中から2単位選択必修
5. 実習科目 10単位必修
○卒業要件単位数 46単位
○履修科目の登録上限 年間40単位

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)  
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。  
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。  
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。  
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。

- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。（2つの表が1ページに表示されるようにしてください。）
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

(教職リーダーコース)

- ・ 教育効果を高めるため、「生徒指導の理論と実践」の専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「学校づくりと学級経営」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「子ども理解と支援・指導の理論と実践」の専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「子ども理解と支援・指導の理論と実践」の専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別活動指導の理論と実践」の専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「教育アセスメント演習」の専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅰ」の専任教員の配置を「教授7」から「教授8」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授2」から「准教授3」に、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅱ」の専任教員の配置を「教授7」から「教授8」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授2」から「准教授3」に、「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅲ」の専任教員の配置を「教授7」から「教授8」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅲ」の専任教員の配置を「准教授2」から「准教授3」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅳ」の専任教員の配置を「教授7」から「教授8」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅳ」の専任教員の配置を「准教授2」から「准教授3」に、「講師1」から「講師0」に変更。

(授業実践開発コース)

- ・ 教育効果を高めるため、「生徒指導の理論と実践」の専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「学校づくりと学級経営」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に変更。
- ・ 新型コロナウイルスの影響のため、「横断的・総合的な学習指導の理論と実践A」の開講学期を「前」から「後」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「横断的・総合的な学習指導の理論と実践A」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授0」から「准教授2」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「横断的・総合的な学習指導の理論と実践A」の専任教員の配置を「4.2」から「4.1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「横断的・総合的な学習指導の理論と実践B」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授0」から「准教授2」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「横断的・総合的な学習指導の理論と実践B」の専任教員の配置を「4.2」から「4.1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「授業研究の理論と実践」の専任教員の配置を「教授0」から「教授2」に、「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「言語科学習指導の理論と実践」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・ 新型コロナウイルスの影響のため、「音楽科学習指導の理論と実践」の開講学期を「後」から「前」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「学校教育におけるICTの実践と課題」の専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「生活科教育の課題と実践」の専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「小学校英語教育の理論と実践」の専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「教育相談の課題と実践」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「教育相談の課題と実践」の兼任担当教員の配置を「1」から「0」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「国語科内容構成学」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授2」から「准教授1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「英語科内容構成学」の兼任担当教員の配置を「8」から「7」に変更。
- ・ 新型コロナウイルスの影響のため、「理科内容構成学」の開講学期を「前」から「後」に変更。
- ・ 新型コロナウイルスの影響のため、「音楽科内容構成学」の開講学期を「前」から「後」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「図画工作・美術科内容構成学」の兼任担当教員の配置を「4」から「5」に変更。
- ・ 教育内容を充実させるため、授業科目「教職実践基礎研究A」、「教職実践基礎研究B」を追加。
- ・ 教育効果を高めるため、「授業実践開発実習Ⅰ」の専任教員配置を「教授6」から「教授8」に、「准教授9」から「准教授10」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「授業実践開発実習Ⅱ」の専任教員配置を「教授6」から「教授8」に、「准教授9」から「准教授10」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「授業実践課題研究Ⅰ」の専任教員配置を「教授6」から「教授8」に、「准教授9」から「准教授10」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「授業実践課題研究Ⅱ」の専任教員配置を「教授6」から「教授8」に、「准教授9」から「准教授10」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「授業実践課題研究Ⅲ」の専任教員配置を「教授6」から「教授8」に、「准教授9」から「准教授10」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「授業実践課題研究Ⅳ」の専任教員配置を「教授6」から「教授8」に、「准教授9」から「准教授10」に変更。

(特別支援教育実践開発コース)

- ・ 教育効果を高めるため、「生徒指導の理論と実践」の専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「学校づくりと学級経営」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育におけるカリキュラムデザイン」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育における授業実践」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育コーディネーターの役割と課題」の兼任担当教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育の制度と学校・学級経営」の専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育の理論と実践」の兼任担当教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育と医療・福祉との連携」の専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「重度・重複障害教育の実践と課題」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育課題発見実習Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授4」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育課題発見実習Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授4」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育課題解決実習」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授4」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育課題研究Ⅰ」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授4」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育課題研究Ⅱ」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授4」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育課題研究Ⅲ」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授4」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「特別支援教育課題研究Ⅳ」の専任教員の配置を「准教授3」から「准教授4」に変更。

【令和3年度】

(教職リーダーコース)

- ・ 教育効果を高めるため、「教育課程編成の理論と実践」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「生徒指導の理論と実践」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「学校づくりと学級経営」の専任教員の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「子ども理解と支援・指導の理論と実践」の専任教員の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「特別活動指導の理論と実践」の専任教員の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅰ」の専任教員の配置を「教授8」から「教授7」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅱ」の専任教員の配置を「教授8」から「教授7」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅲ」の専任教員の配置を「教授8」から「教授7」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅳ」の専任教員の配置を「教授8」から「教授7」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「高度経営力・指導力開発実習Ⅴ」の専任教員の配置を「教授8」から「教授7」に変更。

(授業実践開発コース)

- ・ 教育効果を高めるため、「教育課程編成の理論と実践」の専任教員の配置を「教授1」から「教授1」「講師1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「学校づくりと学級経営」の専任教員の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「横断的・総合的な学習指導の理論と実践A」の兼任担当教員の配置を「兼4.1」から「兼4.6」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「横断的・総合的な学習指導の理論と実践B」の兼任担当教員の配置を「兼4.1」から「兼4.6」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「社会科学習指導の理論と実践」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「理科学習指導の理論と実践」の専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「図画工作・美術科学習指導の理論と実践」の兼任担当教員の配置を「1」から「0」に、「准教授1」から「准教授2」に変更。
- ・ 新型コロナウイルスの影響のため、「家庭科学習指導の理論と実践」の開講学期を「後」から「前」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「家庭科学習指導の理論と実践」の専任教員の配置を「准教授1」から「教授0」に、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「学校教育におけるICTの実践と課題」の専任教員の配置を「講師0」から「講師2」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「インクルーシブ教育としての学習指導」の専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「教育相談の課題と実践」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に、兼任担当教員の配置を「0」から「1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「社会科内容構成学」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 担当教員昇任のため、「理科内容構成学」の専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「図画工作・美術科内容構成学」の兼任担当教員の配置を「5」から「3」に、「准教授1」を「准教授2」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「家庭科内容構成学」の専任教員の配置を「准教授1」から「准教授0」に、「講師0」から「講師1」に、兼任担当教員の配置を「3」から「2」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「社会科の教材研究と授業構想A」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「社会科の教材研究と授業構想B」の専任教員の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 教育効果を高めるため、「授業実践研究法」の専任教員配置を「教授6」から「教授7」に、「准教授3」から「准教授2」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「授業実践開発実習Ⅰ」の専任教員配置を「准教授10」から「准教授8」に、「講師2」から「講師4」に、兼任担当教員の配置を「2」から「1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「授業実践開発実習Ⅱ」の専任教員配置を「准教授10」から「准教授8」に、「講師2」から「講師4」に、兼任担当教員の配置を「2」から「1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「授業実践開発実習Ⅲ」の専任教員配置を「准教授10」から「准教授8」に、「講師2」から「講師4」に、兼任担当教員の配置を「2」から「1」に変更。
- ・ 担当教員退職のため、「授業実践開発実習Ⅳ」の専任教員配置を「准教授10」から「准教授8」に、「講師2」から「講師4」に、兼任担当教員の配置を「2」から「1」に変更。

(特別支援教育実践開発コース)

- ・担当教員退職のため、「学校づくりと学級経営」の専任教員の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「インクルーシブ教育の理論と課題」の専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「特別支援教育課題発見実習Ⅰ」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「特別支援教育課題発見実習Ⅱ」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「特別支援教育課題解決実習」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「特別支援教育課題研究Ⅰ」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「特別支援教育課題研究Ⅱ」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「特別支援教育課題研究Ⅲ」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授4」から「准教授3」に変更。
- ・教育効果を高めるため、「特別支援教育課題研究Ⅳ」の専任教員の配置を「教授3」から「教授4」に、「准教授4」から「准教授3」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。  
 ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

教職リーダーコース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
12	科目	0	科目	24	科目	0	科目	24
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

授業実践開発コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
16	科目	0	科目	49	科目	2	科目	51
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 2 ]	[ 2 ]	

特別支援教育実践開発コース

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
21	科目	0	科目	21	科目	0	科目	21
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{\#REF!} = \boxed{\#REF!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体		
	校舎敷地	383,068㎡	0 ㎡	0 ㎡	383,068㎡			
	運動場用地	93,558㎡	0 ㎡	0 ㎡	93,558㎡			
	小 計	476,626㎡	0 ㎡	0 ㎡	476,626㎡			
	そ の 他	155,408㎡	0 ㎡	0 ㎡	155,408㎡			
	合 計	632,034㎡	0 ㎡	0 ㎡	632,034㎡			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	172,574㎡ ( 172,574㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	0 ㎡ ( 0 ㎡)	172,574㎡ ( 172,574㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
	90 室	29 室	952 室	6 室 (補助職員 4人)	2 室 (補助職員 1人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	教育学研究科			88 86 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での特定不能な ため、大学全体の数  図書等の購入及び整理等 に伴う変更 (3)
	〇〇学部	608,912 [182,013] 616,123 [179,438] (608,912 [182,013]) (616,123 [179,438])	15,642 [4,527] (15,642 [4,527])	8,246 [6,766] (8,246 [6,766])	3,982 (3,982)	8,192 (8,192)	25 (25)	
	計	608,912 [182,013] 616,123 [179,438] (608,912 [182,013]) (616,123 [179,438])	15,642 [4,527] (15,642 [4,527])	8,246 [6,766] (8,246 [6,766])	3,982 (3,982)	8,192 (8,192)	25 (25)	
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
	9,750㎡		927席		894,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体
	5,708㎡		野球場2面、陸上競技場1面、サッカー・ラグビー場2面、テニスコート12面					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。



4. 既設大学等の状況

大学の名称	群馬大学						学生募集停止学科数		平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
<b>共同教育学部</b>											
学校教育教員養成課程	4	190	—	380	学士 (教育学)	1.06	1.05		令和2	群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地	
<b>教育学部</b>											
学校教育教員養成課程	4	—	—	—	—	—	—		平成11	同上	令和2年度学生募集停止
<b>情報学部</b>											
情報学科	4	170	3年次 10	170	学士 (情報学)	1.07	1.07		令和3年	同上	
<b>社会情報学部</b>											
社会情報学科	4	—	3年次 —	—	—	—	—		平成28	同上	令和3年度学生募集停止
情報行動学科	4	—	3年次 —	—	—	—	—		平成18	同上	平成28年度学生募集停止
情報社会科学科	4	—	3年次 —	—	—	—	—		平成18	同上	同上
<b>医学部</b>											
医学科	6	108	2年次 15	723	学士 (医学)	1.00	1.00	令和2	昭和24	群馬県前橋市昭和町三丁目39-22	
保健学科	4	160	3年次 10	660	学士 (看護学)	1.00	1.00		平成8	同上	
<b>理工学部</b>											
(昼間コース)											
物質・環境類	4	285	—	285	学士 (理工学)	1.01	1.01		令和3年	群馬県桐生市天神町一丁目5番1号	
電子・機械類	4	185	—	185	学士 (理工学)	1.04	1.04		令和3年	同上	
化学・生物化学科	4	—	—	—	—	—	—		平成25	同上	令和3年度学生募集停止 定員変更 (5)
機械知能システム理工学科	4	—	—	—	—	—	—		平成25	同上	令和3年度学生募集停止
環境創生理工学科	4	—	—	—	—	—	—		平成25	同上	令和3年度学生募集停止 定員変更 (5)
電子情報理工学科	4	—	—	—	—	—	—		平成25	同上	令和3年度学生募集停止 定員変更 (20)
学科共通	—	—	3年次 30	—	—	—	—		平成25	同上	
(夜間主コース)											
総合理工学科	4	—	—	—	—	—	—		平成25	同上	令和3年度学生募集停止
<b>工学部</b>											
(昼間コース)											
機械システム工学科	4	—	—	—	—	—	—		平成1	同上	平成25年度学生募集停止
生産システム工学科	4	—	—	—	—	—	—		平成19	同上	同上
(夜間主コース)											
生産システム工学科	4	—	—	—	—	—	—		平成19	同上	同上
大学全体	—	1,098	55	4,803	—	—	—	—	—	—	

教育学研究科 〈専門職課程〉												
教育実践高度化専攻	2	20	—	40	教職修士 (専門職)	1.00	1.00	—	令和2	群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地		
教職リーダー専攻	2	—	—	—	—	—	—	—	平成20	同上	令和2年度学生募集停止	
教科教育実践専攻	2	—	—	—	—	—	—	—	平成20	同上	同上	
障害児教育専攻	2	—	—	—	—	—	—	—	平成18	同上	同上	
社会情報学研究科 〈修士課程〉												
社会情報学専攻	2	14	—	28	修士 (社会情報学)	0.50	0.71	—	平成10	同上		
医学系研究科 〈修士課程〉												
生命医科学専攻 〈博士課程〉	2	15	—	30	修士 (生命医科学)	0.40	0.53	—	平成19	群馬県前橋市昭和町三丁目39-22		
医科学専攻	4	57	—	228	博士 (医学)	0.76	0.59	—	平成15	同上		
保健学研究科 〈博士前期課程〉												
保健学専攻 〈博士後期課程〉	2	50	—	100	修士 (保健学)	0.77	0.76	—	平成23	同上		
保健学専攻	3	10	—	30	博士 (保健学)	0.96	0.80	—	平成23	同上		
理工学府 〈博士前期課程〉												
理工学専攻 〈博士後期課程〉	2	300	—	600	修士 (理工学)	1.10	1.06	—	平成25	群馬県桐生市天神町一丁目5番1号		
理工学専攻	3	39	—	117	博士 (理工学)	0.33	0.41	—	平成25	同上		
工学研究科 〈博士後期課程〉												
工学専攻	3	—	—	—	—	—	—	—	平成19	同上	平成25年度学生募集停止	
大学院全体	—	505	—	1,192	—	—	—	—	—	—		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。  
(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。  
・学部・学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。  
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。  
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。  
・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。  
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<教育学研究科 教育実践高度化専攻>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	上里 京子 <令和2年4月> 教育学修士
		家庭科学習指導の理論と実践 家庭科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専他	教授	音山 若穂 <令和2年4月> 修士(文学)
		学校づくりと学級経営 特別活動指導の理論と実践 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	金澤 貴之 <令和2年4月> 博士(教育学)
		特別支援教育の制度と学校・学級経営 特別支援教育と医療・福祉との連携 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専	教授	木山 慶子 <令和2年4月> 博士(体育科学)
		保健体育科学習指導の理論と実践 保健体育科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	上里 京子 <令和2年4月> 教育学修士
		家庭科学習指導の理論と実践 家庭科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専他	教授	音山 若穂 <令和2年4月> 修士(文学)
		学校づくりと学級経営 特別活動指導の理論と実践 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	金澤 貴之 <令和2年4月> 博士(教育学)
		特別支援教育の制度と学校・学級経営 特別支援教育と医療・福祉との連携 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専	教授	木山 慶子 <令和2年4月> 博士(体育科学)
		保健体育科学習指導の理論と実践 保健体育科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	上里 京子 <令和2年4月> 教育学修士
		家庭科学習指導の理論と実践 家庭科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専他	教授	音山 若穂 <令和2年4月> 修士(文学)
		学校づくりと学級経営 特別活動指導の理論と実践 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	金澤 貴之 <令和2年4月> 博士(教育学)
		特別支援教育の制度と学校・学級経営 特別支援教育と医療・福祉との連携 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専	教授	木山 慶子 <令和2年4月> 博士(体育科学)
		保健体育科学習指導の理論と実践 保健体育科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 浩一 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		学習支援の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	霜田 浩信 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		インクルーシブ教育としての学習指導 教育実践研究法 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専他	教授	山口 陽弘 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教育評価の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専他	教授	山崎 雄介 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム開発の理論と実践 学校評価とスクールリーダーシップ 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	渡部 孝子 ＜令和2年4月＞ Master of Education in Education (英国)
		英語科学習指導の理論と実践 インクルーシブ教育としての学習指導 小学校英語教育の理論と実践 英語科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 浩一 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		学習支援の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	霜田 浩信 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		インクルーシブ教育としての学習指導 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専他	教授	山口 陽弘 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教育評価の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専他	教授	山崎 雄介 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム開発の理論と実践 学校評価とスクールリーダーシップ 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	渡部 孝子 ＜令和2年4月＞ Master of Education in Education (英国)
		英語科学習指導の理論と実践 インクルーシブ教育としての学習指導 小学校英語教育の理論と実践 英語科内容構成学 <b>教育実践研究法</b> 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤 浩一 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		学習支援の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	霜田 浩信 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		インクルーシブ教育としての学習指導 特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育の理論と実践 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専他	教授	山口 陽弘 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		教育評価の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専他	教授	山崎 雄介 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		カリキュラム開発の理論と実践 学校評価とスクールリーダーシップ 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	教授	渡部 孝子 ＜令和2年4月＞ Master of Education in Education (英国)
		英語科学習指導の理論と実践 インクルーシブ教育としての学習指導 小学校英語教育の理論と実践 英語科内容構成学 <b>教育実践研究法</b> 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	高橋 望 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		学校づくりと学級経営 学校経営の理論と実践 地方教育行政の理論と実践 学校組織マネジメント演習 学校危機管理の理論と実際 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	准教授	中里(那須) 南子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		音楽科学習指導の理論と実践 音楽科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専	准教授	中村 保和 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		重度・重複障害教育の実践と課題 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専	准教授	宮崎(内山) 沙織 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		社会科学習指導の理論と実践 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専他	講師	大島 みずき ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		子ども理解と支援・指導の理論と実践 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	高橋 望 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		学校づくりと学級経営 学校経営の理論と実践 地方教育行政の理論と実践 学校組織マネジメント演習 学校危機管理の理論と実際 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	准教授	中里(那須) 南子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		音楽科学習指導の理論と実践 音楽科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専	准教授	中村 保和 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		重度・重複障害教育の実践と課題 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専	准教授	宮崎(内山) 沙織 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		社会科学習指導の理論と実践 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B <b>教育実践研究法</b> 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専他	准教授	大島 みずき ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		子ども理解と支援・指導の理論と実践 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専他	准教授	高橋 望 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		学校づくりと学級経営 学校経営の理論と実践 地方教育行政の理論と実践 学校組織マネジメント演習 学校危機管理の理論と実際 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
専	准教授	中里(那須) 南子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		音楽科学習指導の理論と実践 音楽科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専	准教授	中村 保和 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		重度・重複障害教育の実践と課題 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
専	准教授	宮崎(内山) 沙織 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		社会科学習指導の理論と実践 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B <b>教育実践研究法</b> 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専他	准教授	大島 みずき ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		子ども理解と支援・指導の理論と実践 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	小泉 健輔 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 算数・数学科学習指導の理論と実践 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	安藤 哲也 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 幼小連携の課題と実践 生活科教育の課題と実践 教育実践研究法
実専	教授	田村 充 ＜令和2年4月＞ 教育学士 授業実践分析 学習支援の理論と実践 教育評価の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
実専	教授	中尾 敏朗 ＜令和2年4月＞ 国際学修士 社会科内容構成学 社会科学習指導の理論と実践 社会科の教材研究と授業構想A

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	小泉 健輔 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 算数・数学科学習指導の理論と実践 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎 <b>教育実践研究法</b> 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	安藤 哲也 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 幼小連携の課題と実践 生活科教育の課題と実践 教育実践研究法
実専	教授	田村 充 ＜令和2年4月＞ 教育学士 授業実践分析 学習支援の理論と実践 教育評価の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
実専	教授	中尾 敏朗 ＜令和2年4月＞ 国際学修士 社会科内容構成学 社会科学習指導の理論と実践 社会科の教材研究と授業構想A

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	川野 文行 ＜令和3年4月＞ 学士(教育学) <b>授業実践分析</b> <b>学習支援の理論と実践</b> <b>教育評価の理論と実践</b> <b>高度経営力・指導力開発実習Ⅰ</b> <b>高度経営力・指導力開発実習Ⅱ</b> <b>高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ</b> <b>高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ</b> <b>高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ</b> <b>高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ</b>
専	講師	小泉 健輔 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 算数・数学科学習指導の理論と実践 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎 <b>教育実践研究法</b> 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
専	講師	佐藤 佐織 ＜令和2年10月＞ 修士(教育学) 家庭科学習指導の理論と実践 家庭科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	安藤 哲也 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学) 幼小連携の課題と実践 生活科教育の課題と実践 教育実践研究法

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	野村 晃男 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		地方教育行政の理論と実践 学校危機管理の理論と実際 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
実専	教授	益田 裕充 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学)
		理科学習指導の理論と実践 理科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	吉田 秀文 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科学習指導の理論と実践 音楽科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	吉田 浩之 ＜令和2年4月＞ 博士(人間文化学)
		教育課程編成の理論と実践 生徒指導の理論と実践 教育実践研究法
実専	教授	吉野 浩之 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
実専	教授	上原 永次 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 授業研究の理論と実践 教職実践基礎研究A 教職実践基礎研究B 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 特別支援教育の制度と学校・学級経営 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	野村 晃男 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		地方教育行政の理論と実践 学校危機管理の理論と実際 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
実専	教授	益田 裕充 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学)
		理科学習指導の理論と実践 理科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	吉田 秀文 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科学習指導の理論と実践 音楽科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	吉田 浩之 ＜令和2年4月＞ 博士(人間文化学)
		教育課程編成の理論と実践 生徒指導の理論と実践 教育実践研究法
実専	教授	吉野 浩之 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		特別支援教育と医療・福祉との連携 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
実専	教授	上原 永次 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 授業研究の理論と実践 教職実践基礎研究A 教職実践基礎研究B 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 特別支援教育の制度と学校・学級経営 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	野村 晃男 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		地方教育行政の理論と実践 学校危機管理の理論と実際 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
実専	教授	益田 裕充 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学)
		理科学習指導の理論と実践 理科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	吉田 秀文 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽)
		音楽科学習指導の理論と実践 音楽科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	吉田 浩之 ＜令和2年4月＞ 博士(人間文化学)
		教育課程編成の理論と実践 生徒指導の理論と実践 教育実践研究法
実専	教授	吉野 浩之 ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		特別支援教育と医療・福祉との連携 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
実専	教授	上原 永次 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 授業研究の理論と実践 教職実践基礎研究A 教職実践基礎研究B 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 特別支援教育の制度と学校・学級経営 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	河内 昭浩 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 国語科学習指導の理論と実践 インクルーシブ教育としての学習指導 国語科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	准教授	栗原 淳一 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学) 理科学習指導の理論と実践 理科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	准教授	郡司(石川) 明子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 図画工作・美術科学習指導の理論と実践 図画工作・美術科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	准教授	濱田 秀行 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学) 授業研究の理論と実践 国語科学習指導の理論と実践 国語科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	坂西 秀昭 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 学校づくりと学級経営 子ども理解と支援・指導の理論と実践 特別活動指導の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
実専	准教授	河内 昭浩 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 国語科学習指導の理論と実践 インクルーシブ教育としての学習指導 国語科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	准教授	栗原 淳一 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学) 理科学習指導の理論と実践 理科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	准教授	郡司(石川) 明子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 図画工作・美術科学習指導の理論と実践 図画工作・美術科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	濱田 秀行 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学) 授業研究の理論と実践 国語科学習指導の理論と実践 国語科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	教授	坂西 秀昭 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 学校づくりと学級経営 子ども理解と支援・指導の理論と実践 特別活動指導の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
実専	准教授	河内 昭浩 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 国語科学習指導の理論と実践 国語科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	栗原 淳一 ＜令和2年4月＞ 博士(学校教育学) 理科学習指導の理論と実践 理科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	准教授	郡司(石川) 明子 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 図画工作・美術科学習指導の理論と実践 図画工作・美術科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ
実専	教授	濱田 秀行 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学) 授業研究の理論と実践 国語科学習指導の理論と実践 国語科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	講師	<p>小熊 良一</p> <p>＜令和2年4月＞ 修士(学術)</p> <p>技術科学習指導の理論と実践 学校教育におけるICTの実践と課題 技術科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ</p>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	<p>内田 誠</p> <p>＜令和2年4月＞ 教育学士</p> <p>特別支援教育におけるキャリアデザイン 特別支援教育における授業実践 インクルーシブ教育の理論と課題 重度・重複障害教育の実践と課題 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ</p>
実専	准教授	<p>高橋 智美</p> <p>＜令和2年4月＞ 修士(教育学)</p> <p>横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 授業研究の理論と実践 生活科教育の課題と実践 小学校英語教育の理論と実践 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ</p>
実専	准教授	<p>日暮 利明</p> <p>＜令和2年4月＞ 教育学士</p> <p>生徒指導の理論と実践 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 授業研究の理論と実践 学校教育におけるICTの実践と課題 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ</p>
実専	講師	<p>小熊 良一</p> <p>＜令和2年4月＞ 修士(学術)</p> <p>技術科学習指導の理論と実践 学校教育におけるICTの実践と課題 技術科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ</p>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実専	准教授	<p>内田 誠</p> <p>＜令和2年4月＞ 教育学士</p> <p>特別支援教育におけるキャリアデザイン 特別支援教育における授業実践 インクルーシブ教育の理論と課題 重度・重複障害教育の実践と課題 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ</p>
実専	准教授	<p>高橋 智美</p> <p>＜令和2年4月＞ 修士(教育学)</p> <p>横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 授業研究の理論と実践 生活科教育の課題と実践 小学校英語教育の理論と実践 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ</p>
実専	准教授	<p>日暮 利明</p> <p>＜令和2年4月＞ 教育学士</p> <p>生徒指導の理論と実践 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 授業研究の理論と実践 学校教育におけるICTの実践と課題 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ</p>
実専	講師	<p>小熊 良一</p> <p>＜令和2年4月＞ 修士(学術)</p> <p>技術科学習指導の理論と実践 学校教育におけるICTの実践と課題 技術科内容構成学 教育実践研究法 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ</p>
実専	講師	<p>紺谷 正樹</p> <p>＜令和3年4月＞ 修士(教育学)</p> <p>教育課程編成の理論と実践 学校教育におけるICTの実践と課題</p>

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	客員教授	懸川 武史 ＜令和2年4月＞ 農学士
		学校づくりと学級経営 子ども理解と支援・指導の理論と実践 特別活動指導の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
実み	客員教授	木村 淳一 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		カリキュラム開発の理論と実践 学校評価とスクールリーダーシップ
実み	客員教授	立見 康彦 ＜令和2年4月＞ 工学士
		教員の職能成長と倫理
実み	客員教授	平林 茂 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		学校づくりと学級経営 学校組織マネジメント演習
兼担	教授	新井 淑弘 ＜令和2年4月＞ 博士(生物工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 保健体育科の教材研究と内容構成B
兼担	教授	伊藤 隆 ＜令和2年4月＞ 工学博士
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼担	教授	岩崎 博之 ＜令和2年4月＞ 理学(博士)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	客員教授	懸川 武史 ＜令和2年4月＞ 農学士
		学校づくりと学級経営 子ども理解と支援・指導の理論と実践 特別活動指導の理論と実践 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ <b>教育相談の課題と実践</b>
実み	客員教授	木村 淳一 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		カリキュラム開発の理論と実践 学校評価とスクールリーダーシップ
実み	客員教授	立見 康彦 ＜令和2年4月＞ 工学士
		教員の職能成長と倫理
実み	客員教授	平林 茂 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		学校づくりと学級経営 学校組織マネジメント演習
兼担	教授	新井 淑弘 ＜令和2年4月＞ 博士(生物工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 保健体育科の教材研究と内容構成B
兼担	教授	伊藤 隆 ＜令和2年4月＞ 工学博士
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼担	教授	岩崎 博之 ＜令和2年4月＞ 理学(博士)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
実み	客員教授	懸川 武史 ＜令和2年4月＞ 農学士
		<b>教育相談の課題と実践</b>
実み	客員教授	立見 康彦 ＜令和2年4月＞ 工学士
		教員の職能成長と倫理 <b>学校評価とスクールリーダーシップ</b>
実み	客員教授	平林 茂 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		学校づくりと学級経営 学校組織マネジメント演習 <b>カリキュラム開発の理論と実践</b>
実み	客員教授	峯岸 幸弘 ＜令和3年4月＞ 修士(教育学)
		<b>インクルーシブ教育の理論と課題</b> <b>インクルーシブ教育としての学習指導</b> 特別支援教育課題発見実習Ⅰ 特別支援教育課題発見実習Ⅱ 特別支援教育課題解決実習 特別支援教育課題研究Ⅰ 特別支援教育課題研究Ⅱ 特別支援教育課題研究Ⅲ 特別支援教育課題研究Ⅳ
兼担	教授	新井 淑弘 ＜令和2年4月＞ 博士(生物工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 保健体育科の教材研究と内容構成B
兼担	教授	伊藤 隆 ＜令和2年4月＞ 工学博士
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼担	教授	岩崎 博之 ＜令和2年4月＞ 理学(博士)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想



専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	西園 大実 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 家庭科内容構成学 教育実践研究法
		西田 直嗣 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学
兼担	教授	林 耕史 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学
		日置 英彰 ＜令和2年4月＞ 博士(薬学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想 教育実践研究法
兼担	教授	藤本 宗利 ＜令和2年4月＞ 博士(文学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 国語科内容構成学
		藤森 健太郎 ＜令和2年4月＞ 博士(史学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼担	教授	三國 正樹 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学
		茂木 一司 ＜令和2年4月＞ 博士(芸術工学) 図画工作・美術科学習指導の理論と実践 インクルーシブ教育としての学習指導 図画工作・美術科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	西園 大実 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 家庭科内容構成学
		西田 直嗣 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学
兼担	教授	林 耕史 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学
		日置 英彰 ＜令和2年4月＞ 博士(薬学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想
兼担	教授	藤本 宗利 ＜令和2年4月＞ 博士(文学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 国語科内容構成学
		藤森 健太郎 ＜令和2年4月＞ 博士(史学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼担	教授	三國 正樹 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学
		茂木 一司 ＜令和2年4月＞ 博士(芸術工学) 図画工作・美術科学習指導の理論と実践 インクルーシブ教育としての学習指導 図画工作・美術科内容構成学 授業実践開発実習Ⅰ 授業実践開発実習Ⅱ 授業実践課題研究Ⅰ 授業実践課題研究Ⅱ 授業実践課題研究Ⅲ 授業実践課題研究Ⅳ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	西園 大実 ＜令和2年4月＞ 薬学博士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 家庭科内容構成学
		西田 直嗣 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学
兼担	教授	林 耕史 ＜令和2年4月＞ 修士(教育学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学
		日置 英彰 ＜令和2年4月＞ 博士(薬学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想
兼担	教授	藤本 宗利 ＜令和2年4月＞ 博士(文学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 国語科内容構成学
		藤森 健太郎 ＜令和2年4月＞ 博士(史学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼担	教授	三國 正樹 ＜令和2年4月＞ 芸術学修士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	青木 悠樹 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	青山 雅史 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	石井 基裕 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼任	准教授	今井(加藤) 就稔 ＜令和2年4月＞ 博士(社会学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	岩瀧 大樹 ＜令和2年4月＞ 修士(心理学)
		教育相談の課題と実践 教育実践研究法
兼任	准教授	金田 仁秀 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	准教授	岸岡 真也 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	喜多村 徹雄 ＜令和2年4月＞ 博士(芸術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	青木 悠樹 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	青山 雅史 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	石井 基裕 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼任	准教授	市川 寛也 ＜令和2年4月＞ 博士(芸術学)
		図画工作・美術科内容構成学
兼任	准教授	今井(加藤) 就稔 ＜令和2年4月＞ 博士(社会学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	金田 仁秀 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	准教授	岸岡 真也 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	喜多村 徹雄 ＜令和2年4月＞ 博士(芸術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学

専任・ 兼任・ 兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	青木 悠樹 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科内容構成学 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	青山 雅史 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	石井 基裕 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼任	准教授	市川 寛也 ＜令和2年4月＞ 博士(芸術学)
		図画工作・美術科内容構成学
兼任	准教授	今井(加藤) 就稔 ＜令和2年4月＞ 博士(社会学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	金田 仁秀 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	准教授	岸岡 真也 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	喜多村 徹雄 ＜令和2年4月＞ 博士(芸術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	小谷 英生 ＜令和2年4月＞ 修士(社会学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	小林 正行 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 国語科内容構成学
兼任	准教授	齋江 貴志 ＜令和2年4月＞ 修士(美術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学
兼任	准教授	佐藤(長太) 綾 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想 理科内容構成学
兼任	准教授	柴田 知薫子 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	准教授	新藤 慶 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		多文化共生教育の課題と実践 外国につながる児童生徒の指導と支援 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
兼任	准教授	菅生 千穂 ＜令和2年4月＞ Master of Music (米国)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学
兼任	准教授	田井 健太郎 ＜令和2年4月＞ 修士(体育科学)
		保健体育科の教材研究と内容構成A 保健体育科の教材研究と内容構成B 保健体育科内容構成学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	小谷 英生 ＜令和2年4月＞ 修士(社会学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	小林 正行 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 国語科内容構成学
兼任	教授	齋江 貴志 ＜令和2年4月＞ 修士(美術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学
兼任	准教授	佐藤(長太) 綾 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想 理科内容構成学
兼任	准教授	柴田 知薫子 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	准教授	新藤 慶 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		多文化共生教育の課題と実践 外国につながる児童生徒の指導と支援 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
兼任	准教授	菅生 千穂 ＜令和2年4月＞ Master of Music (米国)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学
兼任	准教授	田井 健太郎 ＜令和2年4月＞ 修士(体育科学)
		保健体育科の教材研究と内容構成A 保健体育科の教材研究と内容構成B 保健体育科内容構成学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	小谷 英生 ＜令和2年4月＞ 修士(社会学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 社会科内容構成学 社会科の教材研究と授業構想A 社会科の教材研究と授業構想B
兼任	准教授	小林 正行 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 国語科内容構成学
兼任	教授	齋江 貴志 ＜令和2年4月＞ 修士(美術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 図画工作・美術科内容構成学
兼任	准教授	佐藤(長太) 綾 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想 理科内容構成学
兼任	准教授	柴田 知薫子 ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	准教授	新藤 慶 ＜令和2年4月＞ 博士(教育学)
		多文化共生教育の課題と実践 外国につながる児童生徒の指導と支援 教育アセスメント演習 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
兼任	准教授	菅生 千穂 ＜令和2年4月＞ Master of Music (米国)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学
兼任	准教授	田井 健太郎 ＜令和2年4月＞ 修士(体育科学)
		保健体育科の教材研究と内容構成A 保健体育科の教材研究と内容構成B 保健体育科内容構成学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	田中 一嘉 ＜令和2年4月＞ 文学修士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
		寺嶋 容明 ＜令和2年4月＞ 博士(物理学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	中雄 勇人 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 保健体育科内容構成学 保健体育科の教材研究と内容構成A 教育実践研究法
		古田 貴久 ＜令和2年4月＞ 博士(学術) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 技術科内容構成学 技術科学習指導の理論と実践
兼任	准教授	前田 亜紀子 ＜令和2年4月＞ 博士(工学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 家庭科内容構成学
		三澤 統一郎 ＜令和2年4月＞ Ph.D in Philosophy of Education(英国) 教員の職能成長と倫理 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
兼任	准教授	三原 智子 ＜令和2年4月＞ Doctorat en Lettres Modernes(仏国) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
		宮本 文 ＜令和2年4月＞ Master of Arts(米国) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	准教授	山崎 法子 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	田中 一嘉 ＜令和2年4月＞ 文学修士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
		寺嶋 容明 ＜令和2年4月＞ 博士(物理学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	中雄 勇人 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 保健体育科内容構成学 保健体育科の教材研究と内容構成A
		古田 貴久 ＜令和2年4月＞ 博士(学術) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 技術科内容構成学 技術科学習指導の理論と実践
兼任	准教授	前田 亜紀子 ＜令和2年4月＞ 博士(工学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 家庭科内容構成学
		三澤 統一郎 ＜令和2年4月＞ Ph.D in Philosophy of Education(英国) 教員の職能成長と倫理 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
兼任	准教授	三原 智子 ＜令和2年4月＞ Doctorat en Lettres Modernes(仏国) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
		山崎 法子 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	田中 一嘉 ＜令和2年4月＞ 文学修士 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
		寺嶋 容明 ＜令和2年4月＞ 博士(物理学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 理科の教材研究と授業構想
兼任	准教授	中雄 勇人 ＜令和2年4月＞ 博士(医学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 保健体育科内容構成学 保健体育科の教材研究と内容構成A
		古田 貴久 ＜令和2年4月＞ 博士(学術) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 技術科内容構成学 技術科学習指導の理論と実践
兼任	准教授	前田 亜紀子 ＜令和2年4月＞ 博士(工学) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 家庭科内容構成学
		三澤 統一郎 ＜令和2年4月＞ Ph.D in Philosophy of Education(英国) 教員の職能成長と倫理 高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ 高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ
兼任	准教授	三原 智子 ＜令和2年4月＞ Doctorat en Lettres Modernes(仏国) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
		山崎 法子 ＜令和2年4月＞ 修士(音楽) 横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 音楽科内容構成学



専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	山本 亮介 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼任	准教授	レイモンド・フーゲンブーム ＜令和2年4月＞ 大学卒
		英語科内容構成学
兼任	講師	片柳 雄大 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 技術科内容構成学 技術科学習指導の理論と実践
兼任	講師	島 孟留 ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		保健体育科の教材研究と内容構成B
兼任	講師	山田 敏幸 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	客員教授	久保 信行 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		教育課程編成の理論と実践 道徳教育の理論と実践
兼任	講師	清水 喜義 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		多文化共生教育の課題と実践 外国につながる児童生徒の指導と支援
兼任	講師	添島 康夫 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育の理論と実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	山本 亮介 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼任	准教授	レイモンド・フーゲンブーム ＜令和2年4月＞ 大学卒
		英語科内容構成学
兼任	講師	片柳 雄大 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 技術科内容構成学 技術科学習指導の理論と実践
兼任	講師	島 孟留 ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		保健体育科の教材研究と内容構成B
兼任	講師	山田 敏幸 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	客員教授	久保 信行 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		教育課程編成の理論と実践 道徳教育の理論と実践 <b>教職実践基礎研究A</b> <b>教職実践基礎研究B</b>
兼任	講師	清水 喜義 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		多文化共生教育の課題と実践 外国につながる児童生徒の指導と支援
兼任	講師	添島 康夫 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育の理論と実践

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	山本 亮介 ＜令和2年4月＞ 博士(理学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 算数・数学科内容構成学 教材研究と授業構想のための数学的基礎
兼任	准教授	レイモンド・フーゲンブーム ＜令和2年4月＞ 大学卒
		英語科内容構成学
兼任	講師	片柳 雄大 ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 技術科内容構成学 技術科学習指導の理論と実践
兼任	講師	島 孟留 ＜令和2年4月＞ 博士(体育科学)
		保健体育科の教材研究と内容構成B
兼任	講師	山田 敏幸 ＜令和2年4月＞ 博士(学術)
		横断的・総合的な学習指導の理論と実践A 横断的・総合的な学習指導の理論と実践B 英語科内容構成学
兼任	客員教授	久保 信行 ＜令和2年4月＞ 教育学士
		教育課程編成の理論と実践 道徳教育の理論と実践 <b>教職実践基礎研究A</b> <b>教職実践基礎研究B</b>
兼任	講師	清水 喜義 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		多文化共生教育の課題と実践 外国につながる児童生徒の指導と支援
兼任	講師	添島 康夫 ＜令和2年4月＞ 学士(教育学)
		特別支援教育コーディネーターの役割と課題 特別支援教育の理論と実践

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・授業科目「教育実践研究法」の削除(担当教員専教授霜田浩信)
- ・授業科目「教育実践研究法」の追加(担当教員専教授渡部孝子)
- ・授業科目「教育実践研究法」の削除(担当教員専教授澤田麻衣子)
- ・授業科目「教育実践研究法」の追加(担当教員専教授宮崎(内山) 沙織)
- ・令和2年4月 専任講師から専任准教授に昇任(大島みずき)
- ・授業科目「教育実践研究法」の追加(担当教員専講師小泉健輔)
- ・授業科目「特別支援教育と医療・福祉との連携」の追加(担当教員実専教授吉野浩之)
- ・令和2年4月 実専教授採用(上原永次) 担当授業科目追加
- ・令和2年4月 実専教授採用(坂西秀昭) 担当授業科目追加
- ・令和2年4月 実専准教授から実専教授に昇任(濱田秀行)
- ・令和2年4月 実専准教授採用(内田誠) 担当授業科目追加
- ・令和2年4月 実専准教授採用(高橋智美) 担当授業科目追加
- ・令和2年4月 実専准教授採用(日暮利明) 担当授業科目追加
- ・令和2年3月 実専客員教授(懸川武史) 担当授業科目追加
- ・授業科目「教育実践研究法」の削除(担当教員兼担教授上原(フーゲン)景子)
- ・授業科目「教育実践研究法」の削除(担当教員兼担教授西園大実)
- ・授業科目「教育実践研究法」の削除(担当教員兼担教授日置英彰)
- ・兼任准教授追加(市川寛也) 担当授業科目追加
- ・令和2年3月 兼任准教授退職(岩瀧大樹)
- ・令和2年4月 兼任准教授から兼任教授に昇任(齋江貴志)
- ・授業科目「教育実践研究法」の削除(担当教員兼任准教授中雄勇人)
- ・令和2年3月 兼任准教授退職(宮本文)
- ・授業科目「教職実践基礎研究A」「教職実践基礎研究B」の追加(担当教員兼任客員教授久保信行)
- ・令和2年4月 兼任講師採用(添島康夫) 担当授業科目追加

【令和3年度】

- ・専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、任龍在准教授の担当から「特別支援教育課題発見実習Ⅰ」、「特別支援教育課題発見実習Ⅱ」、「特別支援教育課題解決実習」、「特別支援教育課題研究Ⅰ」、「特別支援教育課題研究Ⅱ」、「特別支援教育課題研究Ⅲ」、「特別支援教育課題研究Ⅳ」を削除
- ・専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、小林陽子准教授の担当から「家庭科学習指導の理論と実践」、「家庭科内容構成学」、「授業実践開発実習Ⅰ」、「授業実践開発実習Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅰ」、「授業実践課題研究Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅲ」、「授業実践課題研究Ⅳ」を削除
- ・専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、澤田麻衣子准教授に「教育実践研究法」を追加
- ・博士学位取得のため、鈴木豪准教授の学位を「博士(教育学)」に変更
- ・専任教員就任(教授)に伴う教員配置見直しのため、川野文行教授を「授業実践分析」、「学習支援の理論と実践」、「教育評価の理論と実践」、「高度経営力・指導力開発実習Ⅰ」、「高度経営力・指導力開発実習Ⅱ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ」の担当教員として追加
- ・専任教員就任(講師)に伴う教員配置見直しのため、佐藤佐織講師を「家庭科学習指導の理論と実践」、「家庭科内容構成学」、「授業実践開発実習Ⅰ」、「授業実践開発実習Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅰ」、「授業実践課題研究Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅲ」、「授業実践課題研究Ⅳ」の担当教員として追加
- ・専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、田村充教授の担当から、「授業実践分析」、「学習支援の理論と実践」、「教育評価の理論と実践」、「高度経営力・指導力開発実習Ⅰ」、「高度経営力・指導力開発実習Ⅱ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ」を削除
- ・専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、中尾敏朗教授の担当から、「社会科内容構成学」、「社会科学習指導の理論と実践」、「社会科の教材研究と授業構想A」、「社会科の教材研究と授業構想B」、「授業実践開発実習Ⅰ」、「授業実践課題研究Ⅰ」、「授業実践課題研究Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅲ」、「授業実践課題研究Ⅳ」を削除
- ・専任教員昇任(准教授→教授)のため、栗原淳一准教授の職名を「教授」に変更
- ・専任教員就任(講師)に伴う教員配置見直しのため、紺谷正樹講師を「教育課程編成の理論と実践」、「学校教育におけるICTの実践と課題」の担当教員として追加
- ・みなし専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、懸川武史客員教授の担当から「学校づくりと学級経営」、「子ども理解と支援・指導の理論と実践」、「特別活動指導の理論と実践」、「高度経営力・指導力開発実習Ⅰ」、「高度経営力・指導力開発実習Ⅱ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ」、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅳ」を削除
- ・みなし専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、木村淳一客員教授の担当から「カリキュラム開発の理論と実践」、「学校評価とスクールリーダーシップ」を削除
- ・みなし専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、立見康彦客員教授に「学校評価とスクールリーダーシップ」の担当教員として追加
- ・みなし専任教員退職に伴う教員配置見直しのため、平林茂客員教授に「カリキュラム開発の理論と実践」の担当教員として追加
- ・みなし専任教員就任に伴う教員配置見直しのため、峯岸幸弘客員教授を「インクルーシブ教育の理論と課題」、「インクルーシブ教育としての学習指導」、「特別支援教育課題発見実習Ⅰ」、「特別支援教育課題発見実習Ⅱ」、「特別支援教育課題解決実習」、「特別支援教育課題研究Ⅰ」、「特別支援教育課題研究Ⅱ」、「特別支援教育課題研究Ⅲ」、「特別支援教育課題研究Ⅳ」の担当教員として追加
- ・兼任教員退職のため、上原(フーゲン)景子教授の担当から「英語学習指導の理論と実践」、「英語科内容構成学」、「授業実践開発実習Ⅰ」、「授業実践開発実習Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅰ」、「授業実践課題研究Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅲ」、「授業実践課題研究Ⅳ」を削除
- ・兼任教員退職のため、茂木一司教授の担当から「図画工作・美術科学習指導の理論と実践」、「インクルーシブ教育としての学習指導」、「図画工作・美術科内容構成学」、「授業実践開発実習Ⅰ」、「授業実践開発実習Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅰ」、「授業実践課題研究Ⅱ」、「授業実践課題研究Ⅲ」、「授業実践課題研究Ⅳ」を削除
- ・兼任教員退職のため、前田亜紀子准教授の担当から「横断的・総合的な学習指導の理論と実践A」、「横断的・総合的な学習指導の理論と実践B」、「家庭科内容構成学」を削除

(注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。  
・ **既設で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**  
・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。  
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。  
・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要教 授数	専任教員数のうち、 完成年度時における 設置基準上の必要実 務家教員数
35 名	18 名	14 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【教職大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
21	14	3	0	38	0	24	14	4	0	42	0
(21)	(14)	(3)	(0)	(38)	(0)						
研究者教員数			講義のみ担当 の教員数			研究者教員数			講義のみ担当 の教員数		
21			0			24			0		
(21)			(0)								
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
24	14	4	0	42	0	24	14	4	0	42	0
[ 3 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 4 ]	[ 0 ]	[ 3 ]	[ 0 ]	[ 1 ]	[ 0 ]	[ 4 ]	[ 0 ]
研究者教員数			講義のみ担当 の教員数			研究者教員数			講義のみ担当 の教員数		
24			0			24			0		
[ 3 ]			[ 2 ]			[ 3 ]			[ 2 ]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段階書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{42}{38} = \boxed{110.52} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{42} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由		
		該当なし							
合計 (D)					後任補充状況の集計 (E)				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	中尾敏朗	R3.2	選択	社会科学内容構成学	②	R3.2死亡による退職のため就任辞退 (3)
				選択	社会科学習指導の理論と実践	①	
				選択	社会科の教材研究と授業構想A	②	
				選択	社会科の教材研究と授業構想B	②	
				必修	授業実践開発実習Ⅰ	①	
				必修	授業実践開発実習Ⅱ	①	
				必修	授業実践課題研究Ⅰ	①	
				必修	授業実践課題研究Ⅱ	①	
				必修	授業実践課題研究Ⅲ	①	
2	准教授	任 龍在	R3.3	必修	特別支援教育課題発見実習Ⅰ	①	R3.3割愛による退職のため就任辞退 (3)
				必修	特別支援教育課題発見実習Ⅱ	①	
				必修	特別支援教育課題解決実習	①	
				必修	特別支援教育課題研究Ⅰ	①	
				必修	特別支援教育課題研究Ⅱ	①	
				必修	特別支援教育課題研究Ⅲ	①	
				必修	特別支援教育課題研究Ⅳ	①	
3	准教授	小林陽子	R2.9	選択	家庭科学習指導の理論と実践	①	R2.9割愛による退職のため就任辞退 (3)
				選択	家庭科内容構成学	①	
				必修	授業実践開発実習Ⅰ	①	
				必修	授業実践開発実習Ⅱ	①	
				必修	授業実践課題研究Ⅰ	①	
				必修	授業実践課題研究Ⅱ	①	
				必修	授業実践課題研究Ⅲ	①	
必修	授業実践課題研究Ⅳ	①					

合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3 人	必修	19 科目	必修	19 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	6 科目	選択	3 科目	選択	3 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	25 科目	計	22 科目	計	3 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
- ・ 兼任兼任教員が担当する (している) 場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記 (3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3 人	必修	19 科目	必修	19 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	6 科目	選択	3 科目	選択	3 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	25 科目	計	22 科目	計	3 科目	計	0 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - \text{③合計(D)+(F)}}{(2) - \text{②設置時の計画(A)}} = \frac{3}{38} = \boxed{7.89} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

3 人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	教授	田村 充	必修	授業実践分析	①	R3.3.31付け65歳で定年退職 (3)			
			必修	学習支援の理論と実践	①				
			必修	教育評価の理論と実践	①				
			必修	高度経営力・指導力開発実習Ⅰ	①				
			必修	高度経営力・指導力開発実習Ⅱ	①				
			必修	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ	①				
			必修	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅱ	①				
			必修	高度経営力・指導力開発課題研究Ⅲ	①				
合計			後任補充状況の集計						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
1 人	必修	9 科目	必修	9 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	
	計	9 科目	計	9 科目	計	0 科目	計	0 科目	

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び ( ) 書きで報告年度を記入してください。
  - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

#### （４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

辞任及び定年退職した専任教員の担当科目については、他の専任教員または兼任教員で開講する。後任者の配置に当たっては、実績を十分に考慮していることから、学生の履修等への影響はない。学生にはガイダンス、時間割等で周知を行う。

- （注）・ 上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
認 可 時 (令和2年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <教育学研究科 教育実践高度化専攻>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 修了要件単位数	変更なし
② 施設・設備	変更なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 群馬大学大学院教育学研究科専門職学位課程運営委員会（別添資料1）</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 月1回程度開催+AA23:B37</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラムに関すること</li> <li>・授業方法に関すること</li> <li>・実習校との連携に関すること</li> <li>・教職大学院FD研究会に関すること等</li> </ul> <p>② 実施状況（設置直後のため なし）</p> <p>a 実施内容 令和3年2月にFD研究会を実施</p> <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教授会前に全教員を対象に講義形式で開催</li> <li>・参加型FDとして特定の教員を対象に開催</li> </ul> <p>c 開催状況（教員の参加状況含む） 参加者79名</p> <p>d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 オンライン授業FDで紹介された先進的な取り組みを、各教員が授業を実施する上での参考とした。</p> <p>③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況</p> <p>a 実施の有無及び実施時期 各学期末に実施（7月、2月）</p> <p>b 教員や学生への公開状況、方法等 教務システムを使用し、学生、教員に結果を公開</p>
--

(注) ・ 「① a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

#### (3) 教育課程連携協議会に関する事項



※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

- ① 体制
- a 委員会の設置状況  
群馬大学教職大学院教育課程連携協議会
  - b 委員会の開催状況（回数や開催日など）  
年2回の開催を予定していたが、コロナの影響で年1回（1月）開催
  - c 委員会の審議事項等  
カリキュラム等に係る編成，評価及び改善策に関する事項，教育活動に関する事項 等
  - d その他
- ② 審議状況（設置直後のため なし）
- a 審議した内容  
運営報告と今後の運営について
  - b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況  
特になし
  - c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況  
特になし

#### （4）自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見  
設置認可時から若干の変更があったが、概ね計画通り開設，運用している。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期  
・令和4年3月31日 公表予定
  - b 公表方法  
・大学ホームページ上に公開予定
- ③ 認証評価を受ける計画  
・令和2年度に評価機関（教員養成評価機構）の評価を受け、認定済

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

#### （5）情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [ 有 ]

《 aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内 ]

c 公表方法 [ ウェブサイトへの掲載 ]

《 aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、  
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

〈様式及び記載例〉

設置計画履行状況報告書・補足説明資料（教職大学院）

群馬大学大学院 教育学研究科 教育実践高度化専攻  
【教職大学院】

国立大学法人群馬大学  
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部企画評価課

職名・氏名 係長・三木<sup>ミキ</sup>智行<sup>トモユキ</sup>

電話番号 027-220-7015

（夜間） 027-220-7015

e-mail kacho-akikaku@jimu.gunma-u.ac.

# 目次

	ページ
1. 調査対象研究科等の令和3年度入学者・在学者の状況 . . . . .	1
2. 既存の教員養成系修士課程の状況 . . . . .	5
3. 設置の趣旨等を記載した書類の履行状況 . . . . .	6
4. 教育委員会等との調整内容の履行状況 . . . . .	19

1 調査対象研究科等の令和3年度入学者・在学者の状況

① 調査対象研究科等の令和3年度入学者の状況  
(教育学研究科教育実践高度化専攻教職リーダーコース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	群馬県教育委員会	2		2					4		
										0		
	派遣制度以外	群馬県内公立学校									0	
		群馬県外公立学校									0	
		群馬大学附属学校									0	
		私立学校等									0	
小 計		0	2	0	2	0	0	0	0	4		
学部新卒学生												
その他(社会人等)												
合 計										4		

(教育学研究科教育実践高度化専攻授業実践開発コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	群馬県教育委員会	4		4		2			10		
										0		
	派遣制度以外	群馬県内公立学校									0	
		群馬県外公立学校									0	
		群馬大学附属学校									0	
		私立学校等									0	
小 計		0	4	0	4	0	2	0	0	10		
学部新卒学生		1	1		3		3			3		
その他(社会人等)												
合 計										13		

(教育学研究科教育実践高度化専攻特別支援教育実践開発コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学校	中学校	中等教育 学校	高校	特別支援 学校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	群馬県教育委員会						2		2		
										0		
	派遣制度以外	群馬県内公立学校									0	
		群馬県外公立学校									0	
		群馬大学附属学校									0	
	私立学校等									0		
小 計		0	0	0	0	0	0	2	0	2		
学部新卒学生			1		1		1	1		1		
その他(社会人等)												
合 計										3		

(注)・ コースや領域・プログラム等, 最小単位の区分ごとに表を作成してください。

- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので, 手入力しないでください。
- ・ 現職教員については, 現在所属する, 休業・退職している場合は入学直前に所属していた学校種に基づいて計上してください。
- ・ 現職教員の区分は, 各大学の実態に合わせて, 適宜追加・削除してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を複数所持している場合は, 該当する校種(幼稚園～特別支援学校)の区分全てに記入し, 「計」欄には実数を記入してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を所持していない場合は, 「その他」に計上し, 備考欄にその旨が分かるように記載してください。
- ・ 現職教員・学部新卒学生・その他(社会人等)のいずれについても, 「その他」に分類される院生がいる場合は, 具体的な内訳を備考欄に記載してください。

② 調査対象研究科等の令和3年度在学者の状況

(教育学研究科教育実践高度化専攻教職リーダーコース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	群馬県教育委員会		7		3		1		11		
										0		
	派遣制度以外	群馬県内公立学校									0	
		群馬県外公立学校									0	
		群馬大学附属学校									0	
		私立学校等									0	
小 計		0	7	0	3	0	1	0	0	11		
学部新卒学生												
その他(社会人等)												
合 計										11		

(教育学研究科教育実践高度化専攻授業実践開発コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	群馬県教育委員会		7		6	1	3		17		
										0		
	派遣制度以外	群馬県内公立学校									0	
		群馬県外公立学校									0	
		群馬大学附属学校									0	
		私立学校等									0	
小 計		0	7	0	6	1	3	0	0	17		
学部新卒学生		2	3		4		3			5		
その他(社会人等)												
合 計										22		

(教育学研究科教育実践高度化専攻特別支援教育実践開発コース)

区 分		幼稚園	小学校	義務教育 学 校	中学校	中等教育 学 校	高 校	特別支援 学 校	その他	計	備 考	
現 職 教 員	教育委員会からの派遣制度	群馬県教育委員会						4		4		
										0		
	派遣制度以外	群馬県内公立学校									0	
		群馬県外公立学校									0	
		群馬大学附属学校									0	
		私立学校等									0	
小 計		0	0	0	0	0	0	4	0	4		
学部新卒学生			2		2		1	2		2		
その他(社会人等)					1		1	1		1		
合 計										7		

(注)・ コースや領域・プログラム等、最小単位の区分ごとに表を作成してください。

- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。
- ・ 現職教員については、現在所属する、休業・退職している場合は入学直前に所属していた学校種に基づいて計上してください。
- ・ 現職教員の区分は、各大学の実態に合わせて、適宜追加・削除してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を複数所持している場合は、該当する校種(幼稚園～特別支援学校)の区分全てに記入し、「計」欄には実数を記入してください。
- ・ 学部新卒学生・その他(社会人等)で教員免許を所持していない場合は、「その他」に計上し、備考欄にその旨が分かるように記載してください。
- ・ 現職教員・学部新卒学生・その他(社会人等)のいずれについても、「その他」に分類される院生がいる場合は、具体的な内訳を備考欄に記載してください。



## 2 既存の教員養成系修士課程の状況

【教育学研究科教科教育実践専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	3	4	—	令和2年度か ら募集停止	
		派遣制度以外	0	0	—		
		小計(a)	3	4	0		0
	学部新卒学生(b)		13	13	—	—	
	その他(社会人等)(c)		3	1	—	—	
	計(d=a+b+c)		19	18	#VALUE!	#VALUE!	
入学定員(e)		20	20	—	—		
定員超過率(d/e)		95%	90%	#VALUE!	#VALUE!		

【教育学研究科障害児教育専攻(M)】

(単位:人)

区 分		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	備 考	
入 学 者 数	現 職 教 員	派遣制度	2	1	—	令和2年度か ら募集停止	
		派遣制度以外	0	0	0		—
		小計(a)	2	1	0		0
	学部新卒学生(b)		2	1	—	—	
	その他(社会人等)(c)		0	1	—	—	
	計(d=a+b+c)		4	3	#VALUE!	#VALUE!	
入学定員(e)		3	3	—	—		
定員超過率(d/e)		133%	100%	#VALUE!	#VALUE!		

(注)・ 本表は既存の教員養成系修士課程における全ての専攻について作成してください。

必要に応じて表を追加してください。

- ・ 黄色セル部分は自動計算されますので、手入力しないでください。
- ・ 学生募集停止中の研究科・専攻等については、「—」を記入するとともに、「備考」に「平成〇年度から学生募集停止」と記入してください。

### 3 設置の趣旨等を記載した書類の履行状況

#### ① 設置の趣旨及び必要性

認 可 ( 設 置 ) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 教育上の理念、目的</p> <p>群馬県の教員育成指標においては、現職教員のキャリア段階を「基礎形成期」、「資質向上・充実期」、「資質発展・円熟期」の3段階に分けて、それぞれの段階で身につけているべき資質・能力を「学習指導・教科経営等」、「生徒指導・学級経営等」、「学校経営」の3領域ごとに具体的に示している。大学は、教員の養成(学生教育)ばかりでなく研修(現職教員教育)においても、今以上に大きな力を発揮できるはずであり、一人ひとりの現職教員が上記の資質・能力を獲得し、そのことを通じて各学校が抱える課題の解決を図ることについて、大学が果たすべき役割は大きい。そのような状況を踏まえ以下のような教員の養成を行う。</p> <p>① 教育現場の置かれている状況及び児童生徒の現状などを的確に分析・把握し、課題を明らかにする資質・能力を身に付けた教員。</p> <p>② 明らかになった課題について、解決策を構築する資質・能力を身に付けた教員。</p> <p>③ 構築した解決策を他者(同僚、保護者等)との協働の中で実践し、その実践を評価・再考察する資質・能力を身に付けた教員。</p> <p>イ どのような教員を養成するのか。</p> <p>「確かな理論と優れた実践的能力を備えたスクールリーダー」並びに「実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員」を養成するため、以下のコースを設ける。</p> <p>「教職リーダーコース」</p> <p>学校の教育力・組織力向上に資するミドルリーダー及びメンター等として若手教員の資質・能力向上を指導する役割を果たす中堅教員を育成する。学力向上、生徒指導、カリキュラム・マネジメント、地域連携、危機管理といった諸課題にかかわって、学習指導、学校運営等の多面的な観点から学校教育実践の在り方を学ぶ。</p> <p>「授業実践開発コース」</p> <p>子どもたちの思考を揺さぶり、新たなものの見方の発見を促すような課題探求を行う授業を実践できる教員を養成する。教科や校種の違いを超えて教育を俯瞰し、教室の事実に基づいて自他の授業実践を分析しながら、各教科の授業と教科横断的な授業を子どもの実態に即して構築することを学ぶ。</p> <p>「特別支援教育実践開発コース」</p> <p>障害の重度化・重複化、多様化する教育的ニーズ、さらにはインクルーシブ教育に対応できる高度な専門性及び実践力と、教育的ニーズを抱える児童生徒の担当教員等への助言を行う力とを備えた特別支援学校・学級、通級指導教室の教員を養成する。教育学、心理学、医学、福祉の面からの障害児に関する専門的な知見について学ぶ。</p>	<p>認可時の計画通り履行</p> <p>・研究科案内パンフレット(添付資料① P4参照) ・履修手引(添付資料② P3参照)</p> <p>認可時の計画通りに履行</p> <p>・研究科案内パンフレット(添付資料① P5参照) ・大学院募集要項(添付資料④ P3参照)</p>

② 教育課程の編成の考え方及び特色

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 教育課程の編成の考え方                      学校教育にかかわる多種多様な課題に対応できる高度な実践的問題解決の能力を持った教員の養成を目指す教育課程を編成する。</p> <p>① 共通5領域の授業科目について                      全ての学生が幅広い分野における指導性の基礎を身に付けられるよう共通に履修すべき科目として、5つの領域毎に以下の科目を開設する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の編成及び実施に関する領域「教育課程編成の理論と実践」</li> <li>・教科等の実践的な指導方法に関する領域「授業実践分析」</li> <li>・生徒指導及び教育相談に関する領域「生徒指導の理論と実践」</li> <li>・学級経営及び学校経営に関する領域「学校づくりと学級経営」</li> <li>・学校教育と教員の在り方に関する領域「教員の職能成長と倫理」</li> </ul> <p>なお、共通5領域に加え、外国籍の児童・生徒が多いという群馬県の教育事情を勘案し、多文化共生教育について学ぶ「多文化共生教育の課題と実践」を開設する。</p> <p>② 各コースについて</p> <p>「教職リーダーコース」                      教育課題解決に資する学級・学年・学校経営にわたる経営力、児童生徒の実態に応じた実践的指導力、両者を兼ね備えた総合的マネジメント力を育成するための教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程の編成・実施に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カリキュラム開発の理論と実践☆</li> </ul> <p>【教科等の実践的な指導方法に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習支援の理論と実践◆</li> <li>・教育評価の理論と実践◆</li> </ul> <p>【生徒指導、教育相談に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども理解と支援・指導の理論と実践◆</li> <li>・特別活動指導の理論と実践◆</li> </ul> <p>【学級経営、学校経営に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校経営の理論と実践☆</li> <li>・学校評価とスクールリーダーシップ☆</li> <li>・地方教育行政の理論と実践☆</li> </ul> <p>※ ☆の科目から3科目、◆の科目から3科目を選択必修とする。</p> <p>「授業実践開発コース」                      新しい学びを支える実践的指導力の育成をねらいに、共通5領域の「教育課程の編成・実施に関する領域」と「教科等の実践的な指導方法に関する領域」を専門的に発展させた教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程の編成・実施に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・横断的・総合的な学習指導の理論と実践A☆</li> <li>・横断的・総合的な学習指導の理論と実践B☆</li> </ul> <p>【教科等の実践的な指導方法に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究の理論と実践</li> <li>・道徳教育の理論と実践</li> <li>・国語科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・社会科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・英語科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・算数・数学科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・理科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・技術科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・音楽科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・図画工作・美術科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・家庭科学習指導の理論と実践◆</li> <li>・保健体育科学習指導の理論と実践◆</li> </ul> <p>※ ☆の科目から1科目を選択必修とする。</p> <p>「特別支援教育実践コース」                      特別支援教育における高度な専門性に基づいた実践者・ミドルリーダーの養成として、障害の重度化・重複化、多様化する教育的ニーズ、さらにはインクルーシブ教育に対応できる高度な専門性を身に付ける教育課程を編成する。</p>	<p>認可時の計画通り履行                      （令和3年度は実習については、新型コロナウイルスにより履行に影響が出る可能性がある）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修手引（添付資料② P25-27参照）</li> <li>・授業計画（添付資料③ P10参照）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修手引（添付資料② P25参照）</li> <li>・授業計画（添付資料③ P11参照）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修手引（添付資料② P26参照）</li> <li>・授業計画（添付資料③ P12-15参照）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修手引（添付資料② P27参照）</li> <li>・授業計画（添付資料③ P16,17参照）</li> </ul>

群馬大学教職大学院

<p>【教育課程の編成・実施に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育におけるカリキュラムデザイン</li> </ul> <p>【教科等の実践的な指導方法に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育における授業実践</li> </ul> <p>【生徒指導、教育相談に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育コーディネーターの役割と課題</li> </ul> <p>【学級経営、学校経営に関する領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育の制度と学校・学級経営</li> </ul>	
<p>③ 実習について</p>	
<p>「教職リーダーコース」 1年次に「高度経営力・指導力開発実習Ⅰ」を履修し、「高度経営力・指導力開発課題研究Ⅰ・Ⅱ」において実践と理論を往還させながら学修を深め、2年次に後続の実習、課題研究科目の履修を行う。</p>	<p>・授業計画(添付資料③ P11参照)</p>
<p>「授業実践開発コース」 1年次に「授業実践開発実習Ⅰ」を履修し、「授業実践課題研究Ⅰ・Ⅱ」において実践と理論を往還させながら学修を深め、2年次に後続の実習、課題研究科目の履修を行う。</p>	<p>・授業計画(添付資料③ P15参照)</p>
<p>「特別支援教育実践コース」 1年次に「特別支援教育課題発見実習Ⅰ・Ⅱ」を履修し、「特別支援教育課題研究Ⅰ・Ⅱ」において実践と理論を往還させながら学修を深め、2年次に後続の実習、課題研究科目の履修を行う。</p>	<p>・授業計画(添付資料③ P16参照)</p>
<p>イ 教育課程の編成の特色 上記の「多文化共生教育の課題と実践」科目を設置したこと。</p>	<p>認可時の計画通り履行 ・授業計画(添付資料③ P10参照)</p>

③ 教員組織の編成の考え方及び特色

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 教員組織の編成の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実務家教員の配置の考え方 実務家教員を4割以上配置する。</li> <li>・教員の年齢構成と定年規定 定年を65歳とする。</li> </ul> <p>イ 教員組織の編成の特色</p> <p>4割を上回る比率で実務家教員を配置することにより、研究者教員と実務家教員の協働による授業を原則とすることができる。また、研究者教員についても、専任教員となるためには相応の実務経験業績ポイントを有することを条件としているので、各授業では、研究者教員と実務家教員という異なった視点からの指導が行われるのみならず、理論と実務を融合させた新たな観点を学生に提示することができる。</p> <p>ウ 実務家教員と研究者教員の配置の比率の考え方</p> <p>実務家教員を専任教員全体の4割以上とする。</p> <p>エ 専任教員が担当する学部・大学院の科目一覧</p> <p>添付資料⑧のとおり</p>	<p>認可時の計画通り履行</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>添付資料⑧で示す変更箇所以外は認可時の計画通り履行 ・教職大学院の専任教員が担当する科目一覧(添付資料⑧参照)</p>

④ 教育方法、履修指導の方法及び修了要件

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 標準修了年限、履修科目の年間登録上限、修了要件、既修得単位の認定方法、成績評価の方法等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準修了年限 現職教員及び学部新卒者等のいずれも2年間とする。</li> <li>履修科目の年間登録上限 年間40単位とする。</li> <li>修了要件             <ul style="list-style-type: none"> <li>学部新卒者等 学部新卒者等については、本専攻に2年以上在学して所定の単位(46単位以上)を修得し、かつ課題研究報告を本教職大学院の設定する場において公表し、評価委員会から合格の承認を得ることを修了要件とする。</li> <li>現職教員 群馬県教育委員会から受験資格を与えられて入学する現職教員は、2年目は勤務しながら課題研究を履修し必要な指導を受けるとともに、勤務時間外にも必要な科目を履修することができる(大学院設置基準第14条「特例の適用」)。なお、現職教員学生も、本専攻に2年以上在学して所定の単位(46単位以上)を修得し、かつ課題研究報告を本教職大学院の設定する場において公表し、評価委員会から合格の承認を得ることを修了要件とする。</li> <li>既修得単位の認定方法 教育実践高度化専攻に入学した学生で他大学の教育学研究科で修得した単位を有する者については、教育実践高度化専攻の授業科目と同等と認められる場合には、教育実践高度化専攻の単位として認定することができる。認定に当たっては、専門職学位課程運営委員会及び研究科委員会の議を経るものとする。ただし、10単位を超えないものとする。</li> <li>成績評価の方法 各授業科目の試験又は研究報告の成績は、評語によりA、B、C、Dの4種とし、A、B、Cを合格、Dを不合格とする。ただし、不合格の科目については再試験を受けることができる。</li> </ul> </li> </ul>	<p>認可時の計画通り履行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修手引(添付資料② P5 群馬大学大学院学則第7条参照)</li> <li>履修手引(添付資料② P19 群馬大学大学院教育学研究科規程第9条参照)</li> <li>履修手引(添付資料② P19 群馬大学大学院教育学研究科規程第11条参照)</li> <li>履修手引(添付資料② P6 群馬大学大学院学則第14条参照)</li> <li>履修手引(添付資料② P6 群馬大学大学院学則第18条参照)</li> </ul>
<p>イ 学修の修了を総合的・最終的に確認するための方策等</p> <p>単位数、必修科目の取得等を教務委員会で確認し、教育学研究科教授会の議を経て学長が修了の可否を決定する。</p>	<p>認可時の計画通り履行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修手引(添付資料② P7 群馬大学大学院学則第22条の2参照)</li> <li>履修手引(添付資料② P13 群馬大学学位規則第8条参照)</li> <li>履修手引(添付資料② P19 群馬大学大学院教育学研究科規程第11条参照)</li> </ul>
<p>ウ 実践的な教育を行うための授業の工夫</p> <p>授業は、講義形式を極力避け、学校教育を巡る各回のテーマについて、研究者教員と実務家教員、また学生からの話題提供を受け、グループ・ディスカッションや全体でのディスカッションを行うことを基本とする。また、授業科目によっては、実技指導、模擬授業、ロールプレイ、ワークショップ、事例の発表とディスカッション、フィールドワーク等を実施する。</p>	<p>認可時の計画通り履行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究科案内パンフレット(添付資料① P12, 15, 17参照)</li> </ul>
<p>エ 現職教員学生と学部新卒学生の合同教育を行う場合の工夫</p> <p>グループで課題に取り組む授業では、学部新卒学生と現職教員学生が1つのグループを構成するようにし、学部新卒学生と現職教員学生の間に教育効果の差が生じないように留意している。また、授業のねらいを分けて記載するなどしている。</p>	<p>認可時の計画通り履行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究科案内パンフレット(添付資料① P16「授業実践開発実習Ⅱ」参照)</li> </ul>
<p>オ 1年コースや長期コースを設定する場合の理念、方策</p>	<p>1年コースや長期コースは設定していない。</p>
<p>カ 現職教員に対する実習免除の基準等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実施の有無</li> <li>実習を免除する現職教員学生の教職経験を設定した考え方</li> <li>教職経験と実習により修得させようとする内容との相関性</li> <li>免除のプロセス</li> <li>教職経験の評価方法、評価体制</li> <li>実習免除の基準</li> <li>免除のために提出させる書類</li> <li>免除の判定方法及び判定する組織・体制</li> </ul>	<p>実習免除はしない。</p>

## 群馬大学教職大学院

- ・入学希望者や学生に対する周知内容, 周知方法
- ・免除の実績及びそれが教育効果に与えている影響の分析・検証
- ・実習の免除基準に達している学生が, 実習の履修を希望した場合の取扱い

⑤ 既存の学部（修士課程）との関係

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科教育実践専攻を廃止する(20名→0名)。</li> <li>・ 障害児教育専攻を廃止する(3名→0名)。</li> <li>・ 教職リーダー専攻を廃止する(16名→0名)。</li> <li>・ 既存修士課程の廃止により、専任教員38名を教職大学院に異動する。</li> </ul>	<p>認可時の計画通り履行</p>

⑥ 入学者選抜の概要

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 入学者選抜の概要(選抜方法、選抜体制等)</p> <p>教員免許状を取得しているか取得見込みであることを出願の要件とし、入学者選抜を行う。現職教員については、小論文試験、面接、教職歴及び教育実践に関わる業績により総合して判定する。学部新卒者等(教職に就いておらず教員免許状を取得しているか取得見込みである者)については、小論文試験、面接、学業成績により総合して判定する。</p> <p>イ アドミッション・ポリシー</p> <p>●入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)～このような人を求めています～          &lt;人材育成の目標&gt;          「確かな理論と優れた実践的能力を備えたスクールリーダー」及び「実践的な指導力・展開力を備え、新しい学校づくりの有力な一員となり得る新人教員」を養成する。</p> <p>&lt;入学者に求める能力・資質&gt;          教育課題の解決に情熱をもって粘り強く取り組む意欲があり、そのために教員としての資質・能力を高める強い意志のある人</p> <p>&lt;教職リーダーコース&gt;          (1) 現代の複雑化・多様化した教育課題に対峙する明確な意志のある人          (2) 教職経験を通じて実践的な経営力及び指導力を身につけていて、さらに向上させる意欲のある人          (3) 学校が直面する教育課題を明確化し、その解決策を主体的に追究することを通して、自身の職能成長を図るとともに、学校現場に貢献する意欲のある人</p> <p>&lt;授業実践開発コース&gt;          学部新卒者          (1) 教職への意欲が明確であり、学校教育に関する基礎的な知識と実践力を十分に備えている人          (2) 児童生徒の学習に係る課題の解決に取り組む意欲があり、そのために自ら各教科等の理解を深め、教員としての実践的指導力を高める強い意志のある人          (3) クラスづくり・生徒指導等の課題とのつながりを視野に入れて、授業実践の開発に取り組む意欲のある人</p> <p>現職教員          (1) 教職に対する使命を自覚し、自らの教育実践上の課題を認識している人          (2) 本コースでの学修を通して、各教科等の最先端の成果を取り込みながら自らの授業実践力を高める意欲のある人          (3) 授業実践の開発を手がかりとしながら、クラスづくり・生徒指導等の多様な学校教育の課題に取り組み、その解決策を探求する意欲のある人</p> <p>&lt;特別支援教育実践開発コース&gt;          学部新卒者          (1) 特別支援教育での教職への意欲が明確であり、特別支援教育に関する基礎的な知識と実践力を十分に備えている人          (2) 障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じた支援や授業実践と改善に対しての向上心が高い人          (3) 他者との協調性があり、多様な人々と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けている人</p> <p>現職教員          (1) 特別支援教育における教職に対する使命と本コースで学ぶことの目的を明確にもっている人          (2) 障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じた支援・授業実践とその改善及び教育的ニーズを抱える児童生徒の担当教員への助言等について、向上心を有する人          (3) 他者との協調性があり、多様な人々と協働して課題に取り組むためのコミュニケーション能力を身に付けている人</p> <p>ウ 現職教員受入れのための具体的方策</p> <p>県派遣の現職教員について、群馬県教育委員会から16名を目処とし派遣する旨の覚書を取り交わしている。</p>	<p>認可時の計画通り履行</p> <p>2021年度入学者選抜結果          志願者24名(うち現職16名)、合格者21名(うち現職16名)、入学者20名(うち現職16名)</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究科案内パンフレット(添付資料① P2参照)</li> <li>・ 大学院募集要項(添付資料④ P1,2参照)</li> </ul> <p>認可時の計画通り履行</p>



群馬大学教職大学院

エ 学部新卒者受入れのための具体的方策  
 学部新卒者については、教員免許状(一種)を持つ本学の学部卒業生および、近隣の教育学部卒業生を想定している。入試説明会等を実施し入学促進を図る。

認可時の計画通り履行

⑦ 取得できる免許状

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 取得できる免許状</p> <p>【教職リーダーコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状</li> </ul> <p>(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭専修免許状</li> </ul> <p>(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 工業, 英語)</p> <p>【授業実践開発コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園教諭専修免許状</li> <li>・小学校教諭専修免許状</li> <li>・中学校教諭専修免許状</li> </ul> <p>(国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 技術, 家庭, 英語)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校教諭専修免許状</li> </ul> <p>(国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 美術, 保健体育, 家庭, 工業, 英語)</p> <p>【特別支援教育実践コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校教諭専修免許状</li> </ul> <p>(聴覚障害者, 視覚障害者, 知的障害者, 肢体不自由者, 病弱者)</p>	<p>認可時の計画通り履行</p> <p>教員免許を取得または3月末までに取得見込みを出願要件としているため、免許を持たない学生は入学しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院募集要項(添付資料④ P6.7参照)</li> </ul>

⑧ 「大学院設置基準」第2条の2又は第14条による教育方法の特例を実施する場合

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 修業年限 2年</p> <p>イ 履修指導の方法 授業に出席するために本研究科に登校した際に時間を確保し、面談により指導する。また、必要に応じて、研究科教員が在籍校に向いて指導するほか、電子メール、Skype等の通信手段を活用して指導する。</p> <p>ウ 授業の実施方法 実習は在籍校において行うこととし、指導教員が在籍校に向いて指導する。他の授業は、必要に応じて、夜間又は在籍校において担当授業のない日(土日祝日及び長期休業期間を含む)を利用した集中形式の授業を開講する。</p> <p>エ 教員の負担の程度 他の業務を調整し、負担が重くならないようにする。</p> <p>オ 図書館・情報処理施設等の利用方法や学生の厚生に対する配慮、必要な教員の配置 総合情報メディアセンターの施設は、授業期間中は毎日21時まで開館している。また、同センター図書館の蔵書のうち研究室に配架されているものについては、学生は随時利用することができる。</p> <p>カ 入学者選抜の概要 対象となる現職教員については、面接試験において、当該教員の日常的な教育実践について質問する。さらに、それまでの教職経験で培ってきた課題認識等を問い、研究計画(2年次における職務遂行との関係を含む)について述べさせる。</p>	<p>認可時の計画通り履行 ・履修手引(添付資料② P27参照)</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>認可時の計画通り履行 ・授業計画(添付資料③ P4-9参照)</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>認可時の計画通り履行</p>

⑨ 2以上の校地において教育研究を行う場合

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 専任教員の配置, 教員の移動への配慮</p> <p>イ 学生への配慮</p> <p>ウ 施設設備, 図書</p> <p>エ 開設科目名及び開設科目ごとにおける対象の学生数</p>	<p>該当なし</p>

⑩ 現職教員を対象とした教育の一部を本校以外の場所(サテライトキャンパス)で実施する場合

認 可 (設 置) 時 の 計 画	履 行 状 況
<p>ア 開講科目</p> <p>イ 教育研究環境, 施設設備, 図書</p> <p>ウ 教員の移動</p> <p>エ 受入れ学生数</p>	<p>該当なし</p>

⑪ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 実施場所, 実施方法, 学則における規定等</p> <p>イ 開設科目名</p> <p>ウ 開設科目ごとにおける対象の学生数</p>	<p>該当なし</p>

⑫ 管理運営の考え方

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 教授会</p> <p>① 構成員 専任教員及び兼任教員全員</p> <p>② 開催状況 原則 毎月1回</p> <p>③ 審議事項等 学生の入学, 卒業及び課程の修了, 学位の授与, 大学教員の教育研究業績等の審査等</p> <p>イ その他の組織体制</p> <p>(1)群馬大学大学院教育学研究科専門職学位課程運営委員会</p> <p>① 構成員 専門職学位課程長, 各コース長</p> <p>② 開催状況 月1回程度</p> <p>③ 審議事項等 カリキュラム, 授業方法, 実習校との連携, 予算等</p> <p>(2)群馬大学教職大学院教育課程連携協議会</p> <p>① 構成員 研究科長, 専門職学位課程長, 各コース長, 研究科長が委嘱する県教育委員会職員, 研究科長が委嘱する県内公立小・中・特別支援学校長・教諭</p> <p>② 開催状況 年2回</p> <p>③ 審議事項等 授業, 実習, カリキュラム等に係る編成, 評価及び改善策に関する事項等</p>	<p>認可時の計画通り履行</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>各コースに専任教員とみなし専任教員で構成するコース委員会を置く。</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>県教委, 連携協力校の校長, 教員を含む。</p>

⑬ 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 大学全体のFDの取組</p> <p>記載なし</p> <p>イ 教職大学院独自のFDの取組</p> <p>毎年度末にFD研究会を実施して, 今後の教職大学院の組織を改善するための検討を行う。</p> <p>ウ 教職大学院専任教員の研究の質の向上に向けた取組</p> <p>記載なし</p>	<p>毎年9月下旬頃に学生投票によりベストティーチャーに選出された教員による公開模擬授業を全学FDとして開催している。令和2年度は選出された教員の授業動画を作成しオンデマンド方式で9/8～11/20に実施した。</p> <p>教職員を対象にFD推進の一環として, 毎年全学FD講演会「大学教育のグランドデザイン」を開催している。令和2年度はオンラインにより実施(9月)</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>教授会開催前に全教員を対象にFDを開催した。(2月)</p> <p>本学と群馬県教育委員会によるシンポジウム「ぐんまの教師力を高める」を例年開催し, 本学教員, 教育委員会職員, 県内の小中学校教員が参加し質向上に努めている。令和2年度はオンラインにより実施(11月)</p>

⑭ 連携協力校等との連携

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 連携協力する学校名と具体的な連携内容</p> <p>添付資料⑤のとおり</p> <p>イ 連携協力校以外の関係機関（民間企業、関係行政機関、教育センター等）の名称と具体的な連携内容</p> <p>独立行政法人教職員支援機構</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>群馬大学大学院教育学研究科のカリキュラムと教職員支援機構が実施する研修プログラムの相互活用に関すること。</li> <li>教員の資質向上のための研修プログラムの開発と支援に関すること。</li> </ul> <p>ウ 大学・学部が附属学校を設置している場合の活用方法</p> <p>1年次に設定される実習において、附属学校のそれぞれの実践的課題研究から学ぶとともに、授業実践開発コースと特別支援教育実践コースの学部新卒者等が2年次に長期間にわたって継続的に行う実習の実施校として活用する。</p>	<p>認可時の計画通り履行（新型コロナウイルスにより履行に影響が出る可能性がある）</p> <p>毎年入学者の置籍校に群馬県教育委員会を通して依頼することになっている。</p> <p>・連携協力校一覧（添付資料⑤参照）</p> <p>認可時の計画通り履行</p> <p>認可時の計画通り履行</p>

⑮ 実習の具体的な計画

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 実習計画の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習目標</li> </ul> <p>実際の教育実践を理論に基づいて省察し、その改善を図っていく過程について実地で学ぶことをねらいとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習単位</li> </ul> <p>【教職リーダーコース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度経営力・指導力開発実習Ⅰ（4単位）</li> <li>・高度経営力・指導力開発実習Ⅱ（6単位）</li> </ul> <p>【授業実践開発コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業実践開発実習Ⅰ（2単位）</li> <li>・授業実践開発実習Ⅱ（8単位）</li> </ul> <p>【特別支援教育実践開発コース】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育課題発見実習Ⅰ（2単位）</li> <li>・特別支援教育課題発見実習Ⅱ（2単位）</li> <li>・特別支援教育課題解決実習（6単位）</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な実習内容、教育上の効果</li> </ul> <p>学校実習と課題研究とを密接に関連付けた学修の教育上の効果により、教育の理論と実践の往還を実質化し、学生が「反省的教師(reflective teacher)」として学び続けながら教職キャリアを重ねることのできる資質・能力の育成を図る。各コースともに1年次と2年次の両方に実習を配置し、1年次の実習では学校における実際の課題解決への複数の取り組みに接して、課題設定とその解決のためのアプローチの多様なあり方について理解を深めるとともに、2年次の長期間にわたって継続的に行われる実習に向け自らが取り組む課題の整理を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設に求める要件</li> </ul> <p>実習施設には、学生の指導を行う指導教員1人の配置を求める。教職大学院制度の趣旨を踏まえ、実習施設の実習指導教員には20年以上の教職経験を有する主幹教諭、あるいは教頭等の管理職を当ていただくよう依頼する。また、現職教員の実習を勤務校での日常の勤務と明確に区別し、勤務校での実習の水準を確保するために、実践計画による実習日の明確化、実習録による明確化、大学院指導教員の訪問と実践検討会の開催を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習期間・時間</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 1年次 120時間</li> <li>・高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 2年次 180時間</li> <li>・授業実践開発実習Ⅰ 1年次 60時間</li> <li>・授業実践開発実習Ⅱ 2年次 240時間</li> <li>・特別支援教育課題発見実習Ⅰ 1年次 60時間</li> <li>・特別支援教育課題発見実習Ⅱ 1年次 60時間</li> <li>・特別支援教育課題解決実習 2年次 180時間</li> </ul>	<p>認可時の計画通り履行（新型コロナウイルスにより履行に影響が出る可能性がある）</p> <p>実習校の教員のもとで授業実践や学級指導を行うこともある。</p>

・学生の配置人数等

- ・高度経営力・指導力開発実習Ⅰ 1校1人、公開研究会等へは学生毎に参加
- ・高度経営力・指導力開発実習Ⅱ 1校1人
- ・授業実践開発実習Ⅰ 公開研究会等へは学生毎に参加
- ・授業実践開発実習Ⅱ 1校1～2人
- ・特別支援教育課題発見実習Ⅰ 視察は全員、公開研究会等は学生毎に参加
- ・特別支援教育課題発見実習Ⅱ 1校1人
- ・特別支援教育課題解決実習 1校1人

・問題対応、きめ細やかな指導を行うための実習委員会の設置等  
専門職学位課程運営委員会の下に実習部会を設置する。実習部会は、実習及び学生受け入れ人数等の原案作成、学生へのオリエンテーション等、実習全般の業務を行う。また、各実習校で設けられる実習連携部会を統括し、実習が適切に実施されているか把握・確認する。なお、委員は実務家教員と研究者教員

・学生へのオリエンテーションの内容、方法  
入学直後のオリエンテーション時に、教育実習部長より、各実習の概要を説明する。また、各実習前に、実習オリエンテーションを開催し、実習部会員より、実習日程、実習内容・実施方法、実習録の作成方法等について説明する。

イ 実習指導体制と方法

・巡回指導計画  
1人の学生に対し、研究者教員1人と実務家教員1人からなるチームを配置する(教員35名)。2年次の長期間にわたる実習の巡回については、実習校との相談に基づきながら、4実習日に1回以上を目安に実施する。

・実習担当教員ごとに勤務モデル等

・実習計画全体が掌握できる年間スケジュール  
添付資料⑥のとおり

・各班のスケジュール表

・各段階における学生へのフィードバック、アドバイスの方法等  
1年次の実習では、各学生の実習録へコメントを記載するほか、直接、事後検討会でフィードバック及びアドバイスをする。  
2年次の実習では、大学院指導教員が実習校に向いた際に、各学生の実習録へコメントを記載し、学生へのフィードバック及びアドバイスをする。さらに、実習校への訪問指導の際に、直接アドバイスをする。  
また、実習終了後に、各学生の実習録へのコメントによりアドバイス等をする。

・学生の実習中、実習終了後のレポート作成・提出等  
1年次の実習では、学生は、実習日ごとに実習録を作成し、月ごとに大学院指導教員に提出する。また、全ての実習終了後に、レポートを作成し提出する。  
2年次の実習では、学生は、実習日ごとに実習録を作成し、毎回、実習校指導教員の検印を受ける。さらに、大学院指導教員が実習校に向く際に、毎回、提出する。  
また、最終的には、授業「課題研究」の最終報告として、実践内容等を研究実践報告書にまとめ、発表、提出する。

ウ 施設との連携体制と方法

・施設との連携の具体的方法、内容  
実習をはじめとする各種の授業及びカリキュラムに係る編成・評価・改善策等の教育課程に関する協議を行うため、教職大学院教育課程連携協議会を設置する。(年2回程度開催)

・相互の指導者の連絡会議設置の予定等  
教職大学院連携協議会の下に、実習校ごとに、実習連携部会を設置する。構成員は、連携協力校(実習校)の実習指導教員、及び、その実習校担当の大学院指導教員である。実習連携部会は、実習開始前及び実習終了後に必ず開催する。また、実習中においても必要に応じて開催する。

・大学と実習施設との緊急連絡体制  
実習において、緊急を要する事態が発生した場合は、教務係実習担当者及び各実習校担当の大学院指導教員が窓口となり、実習部会長に報告する。実習部会長は、必要に応じて、実習部会を開催し、又は研究科長に連絡し、対応にあたる。また、連携協力校においては、実習指導責任教員が窓口となる。

・各施設での指導者の配置状況  
実習校ごとに実習指導責任教員1名を配置する。実習指導責任教員の指示のもと、学生が配属されるクラス担任等が指導担当教員となる。なお、現職教員の実習校指導教員は、学生の課題テーマにより、教頭・教務主任・生徒指導主任が担当することになる。

・実習前、実習中、実習後等における施設との調整・連絡等  
実習指導責任教員によって随時行う。

認可時の計画通り履行(新型コロナウイルスにより履行に影響が出る可能性がある)

教員ごとの勤務モデルはない。

・実習年間スケジュール(添付資料⑥参照)  
適宜訪問指導を行うので作らない。

認可時の計画通り履行

・教職大学院教育課程連携協議会規程等(添付資料⑦参照)

エ 単位認定等評価方法

- ・各施設での学生の評価方法  
各実習のねらいがどの程度達成されているかという観点から、学生の実習録の内容及び実習時の実践等の状況について評価を行う。
- ・各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携  
実習校指導教員と大学院指導教員は、実習の手引き及び実習録に示した評価の観点に基づき、連携して評価を行う。
- ・大学における単位認定方法  
実習校指導教員と大学院指導教員の連携による成績評価に基づいて教育実習部会が原案を作成し、専門職学位課程運営委員会が最終的な成績評価を行う。

認可時の計画通り履行

## 4 教育委員会等との調整内容の履行状況

認可（設置）時の計画	履 行 状 況
<p>ア 養成する人材像について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象とする学生層(現職教員学生と学部新卒者)と規模 現職教員については1種免許状を取得している者。 学部新卒者については、1種免許状を取得または取得見込みの者。 現職教員16名程度、学部新卒者4名程度、合わせて20名。</li> <li>教育委員会から推薦を受ける現職教員の派遣要件 3年の教職経験を有し、本学教職大学院で入学しようとするコースの出願資格を満たし、アドミッションポリシーに適合するもの</li> </ul>	<p>認可時の計画通り履行 令和3年度入学者 県派遣現職者16名、学部卒者4名。</p>
<p>イ 教育課程・教育方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践的指導力を育成する体系的で効果的なカリキュラム編成 学校教育にかかわる多種多様な課題に対応できる高度な実践的問題解決の能力を持った教員の育成のため、自らの教育実践を理論に基づき振り返ることができる実習を教育課程の中心におくことにより、理論と実践の往還を持続的に発展させる。実習と課題研究、並びに個々の授業科目において、学校の実際の教育実践について協働を通して課題を見出し、その対応策を検討、実施し、振り返ることを通して、より良い実践のあり方を追求する資質・能力を育成する。</li> <li>実践的で新しい教育方法の開発・導入の方策 実務経験業績ポイント制に基づき、実践性を備えた教員が学生指導に当たる体制を整備。各授業科目のシラバスにおいて、群馬県教員育成指標との対応を踏まえた到達目標を明示する。</li> <li>デマンド・サイドの意見・ニーズが反映される教育課程等の改善のシステム 教職大学院教育課程連携協議会を設置する。協議会では、教職大学院の実習をはじめとする各種の授業及びカリキュラムに係る編成・評価・改善策等、教育課程に関する検討を行う。構成員は、群馬県又は市町村の教育委員会の職員、群馬県内の公立小学校の校長、群馬県内の公立中学校の校長、群馬県内の公立特別支援学校の校長、群馬県内の公立学校の教諭、教育学研究科長、専門職学位課程長、教職大学院教務部会長及び教職大学院実習部会長とする。</li> </ul>	<p>認可時の計画通り履行</p>
<p>ウ 履修形態について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現職教員学生が職務に従事しながら履修する場合における昼夜開講制等の配慮・工夫の方策 群馬県教育委員会から受験資格を与えられて入学する現職教員は、2年目は勤務しながら課題研究を履修し必要な指導を受けるとともに、勤務時間外にも必要な科目を履修することができる(大学院設置基準第14条「特例の適用」)。</li> </ul>	<p>認可時の計画通り履行</p>
<p>エ 教員組織について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>理論と実践の融合が担保される教員組織の全体構成 実務家教員には、コース毎に目指す人材育成に応じてそれに相応しい教職経験の内容と資質・能力を求めている。県教育委員会との協定により指導主事等を経験した人材3名を実務家教員として受け入れて配置する。一人の実務家教員の派遣期間については3年を基本し、定期的に交替させることで実践の場の最新の知見を取り入れ続けることを可能とする。</li> <li>実務家教員に求める教職経験の内容、資質等 校長経験または指導主事経験を有するもの。</li> <li>都道府県等の教育センターの専門的職員の活用・協力 附属学校での研究報告会で、群馬県総合教育センターの指導主事に指導助言者として協力いただいている。</li> <li>実務家教員の質確保にかかる継続的な採用の方策 群馬県教育委員会との協定に基づき、教育委員会が大学の実務家教員候補者として校長経験者(4名)及び指導主事経験者(3名)を推薦することが定められており、県との人事交流により実務家教員を恒常的に確保する見通しが立っている。</li> </ul>	<p>認可時の計画通り履行</p>

群馬大学教職大学院

オ 連携協力校の在り方について

- ・連携協力校設定の考え方  
授業実践改善やカリキュラム開発において学部との連携協力を重ねてきている附属学校園と現職教員の置籍校である群馬県内の幅広い地域の小・中・高等学校等、それに加えて特別支援教育領域においては、学校が受け入れている児童生徒の障害種を踏まえ、視覚障害(群馬県立盲学校)、聴覚障害(群馬県立聾学校)、知的障害(群馬県立前橋高等特別支援学校、群馬県立吾妻特別支援学校、並びに群馬大学教育学部附属特別支援学校)、肢体不自由(群馬県立二葉特別支援学校)を設定する。
- ・具体的な連携協力内容  
教職大学院の指導教員と連携を図りつつ、学生の取り組みが連携協力校の課題解決に資するものとなっているか、連携協力校の教育実践において他の教員との協働を適切に行っているかといった観点からの指導・助言を行う。
- ・毎年度継続して連携協力校等を確保できる方策  
学部附属する4つの学校園に加え、学生として県から派遣される現職教員の置籍校、地域の教育問題に取り組む先進校等を連携協力校として確保するために学校と調整を実施する承諾を群馬県教育委員会から得ている。

カ 実習の在り方について

- ・設置の趣旨、特色、教育課程等を踏まえた、実習校の学校種、規模、立地条件に応じた実習先の考え方  
学部附属する4つの学校園に加え、現職教員の置籍校、特別支援教育領域においては、学校が受け入れている児童生徒の障害種を踏まえた学校種を設定する。
- ・学生層(現職教員・学部新卒者)に応じた実習校の学校種、実習内容、実施年次の考え方  
1年次は主に附属学校園で実践研究課題の明確化、実践観察を行い、2年次は現職教員は置籍校で、学部新卒者は附属学校、連携協力校での学校実習を行う。

キ 教職大学院の管理運営体制

- ・恒常的に教育委員会等デマンド・サイドと密接に連携する方策  
教職大学院の実習をはじめとする各種の授業及びカリキュラムに係る編成・評価・改善策等、教育課程に関する協議を行うため、教職大学院教育課程連携協議会を設置する。
- ・学校教育の実態や社会の変化等に柔軟に対応しうる機動的な管理運営システムの確立  
群馬県教育委員会と日常的に必要な事項について協議する体制をとる。

ク その他

- ・FD活動への教育委員会等の協力内容  
毎年度末にFD研究会を実施して、今後の教職大学院の組織を改善するための検討を行う。教育委員会との人事交流によって教職大学院の教員となっている実務家教員が主導して教育活動に実践性を担保するための方策について報告・提案を行う。
- ・自己点検の評価等への取組  
大学評価室及び各学部等評価委員会等を中心として、教育研究活動等の自己点検・評価を実施している。具体的には、本学の中期計画・年度計画の実施状況を各学部等において点検・評価を実施し、その進捗状況を大学全体の組織である大学評価室にて検証することとしている。

認可時の計画通り履行

認可時の計画通り履行(令和3年度は新型コロナウイルスにより履行に影響が出る可能性がある)

認可時の計画通り履行

群馬県教育委員会が設置する「群馬県教員育成協議会」の委員に教育実践開発コースのコース長である濱田教授が任命されており、恒常的に情報の交換を行っている。